

大井家ノ下モ遺跡発掘調査報告書

鳥取県佐治村

ŌI IENOSHIMO

大井家ノ下モ遺跡発掘調査報告書

県営佐治地区ほ場整備事業に伴う事前調査

一九九九・三 佐治村教育委員会

1999・3

佐治村教育委員会



石 鍋



墨 書 瓦 器

序 文

佐治村は鳥取県東南部に位置し、その西部を岡山県に接する東西に長い山村であります。その中で大井家ノ下モ遺跡が所在する大井は、千代川の支流、佐治川の右岸の河岸段丘上にあり、古くから大井千軒跡と称されてきた古い歴史を有する地域であります。

今回の調査は、県営佐治地区ほ場整備事業の実施計画に伴い、平成9年度に行った試掘調査の結果に基づき、この事業によって失われる1,450㎡について記録保存を目的に実施したものであります。

古くからこの地に暮らし、その営み、文化の存在が予測されていたにもかかわらず、記録に乏しく定かでない点が多かったわけではありますが、今回の調査により、滑石製の石鍋や多量の中国製陶磁器、水田跡の出上など中世の佐治村の歴史を知る上で貴重な資料が得られたことに意義深いものを感じております。

調査終了にあたり、鳥取県教育委員会文化課・鳥取県埋蔵文化財センター・山郷小学校田中精夫教頭ほか関係各位のご指導ご助言に対し心から感謝申し上げます。また、地権者の方々や、猛暑の中、発掘作業に従事していただいた皆様など多くの関係者のご尽力により、予定どおりに発掘調査を終え、その調査報告書を作成することができました。衷心より厚くお礼申し上げます。

平成11年3月

鳥取県八頭郡佐治村教育委員会

教育長 小谷 行 男

例 言

1. 本報告書は、佐治村教育委員会が県営ほ場整備事業に伴って実施した、埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 調査遺跡「大井家ノ下モ遺跡」は、佐治村大字大井家ノ下モに所在する。
3. 本報告書で使用した方位は真北であり、標高数値はすべて海拔標高である。
4. 本報告書記載の地形図は、「佐治村役場発行 佐治村全図 2」による。
5. 調査体制は次の通りである。

調査主体	佐治村教育委員会	教育長	小谷行男
事務局	佐治村教育委員会	次長	楳原喜代子
		係長	下田稔
		主任	竹本浩一
		事務補佐員	竹内香織

調査指導 鳥取県教育委員会文化課・鳥取県埋蔵文化財センター・田中精夫

調査担当 佐治村教育委員会委嘱調査員 道谷富士夫

調査協力 長谷喜美子・谷上すず枝・徳山和子・中島みちる・岡島克枝

岡本敦志・藤原正道・山下徳太郎・田中山喜江・山根兵太郎

田中久美子・長谷健太郎

6. 出土遺物の整理・実測及び図面の抄書は、田中久美子・長谷健太郎が、執筆・編集は道谷富士夫が当たった。
7. 発掘調査によって作成された記録、出土遺物は佐治村教育委員会に保管されている。
8. 発掘調査、整理作業にあたっては、下記に便宜をはかっていただいた。
佐治村役場、西浦組（河原町）

凡 例

1. 本報告書における遺構記号は次の通りである。

SB=掘立柱建物跡 SA=構列跡 SK=上坑 P=ピット H=標高

2. 本報告書における実測図は、図に表わされた縮尺による。
3. 遺物には遺跡名（最初は大井橋詰遺跡という事でO・Hとしたが、後、大井家ノ下モ遺跡が正式名となる）調査区名、取り上げ番号、取り上げ年月日を基本的に記載した。
4. 実測図・遺物図版中の番号は遺物番号である。
5. 土坑の規模は（長径×短径×深さ）で表わした。ただし、長径・短径は上縁部での規模である。

目 次

序 文	
例言・凡例	
目 次	
第1章 調査の経緯と経過	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 位置と環境	
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の方法	
第1節 調査区の設定	5
第2節 基本順序	6
第4章 遺構と遺物	
第1節 遺跡の概要	8
第2節 遺構と遺物	10
○ A調査区	10
○ B調査区	11
○ C調査区	11
○ D調査区	12
○ E調査区	12
第5章 考 察	
第1節 家ノ下モ遺跡について	20
第2節 大井家ノ下モ遺跡出土の陶磁器と石鏡について	八崎 興 22
第3節 大井家ノ下モ遺跡出土の足跡に関する所見	田中 精夫 25
まとめ	28
遺物観察表	31
遺物実測図	49
写真図版	89
報告書抄録	133

挿 図 目 次

挿図1	佐治村位置図並びに遺跡分布図 ……3~4	挿図8	E調査区グリッドと出土遺物数…16
挿図2	調査区全図(杭位置を含む) ……5	挿図9	墨書土器・瓦器出土位置と見取図 ……19
挿図3	各調査区土層断面図……………6	挿図10	鳥取県内出上の石鍋……………24
挿図4	大井家ノ下モ遺跡遺構全体図…………7	挿図11	足跡検出状況(A区画)……………25
挿図5	A調査区足跡……………10	挿図12	足跡実測図(石膏型どり)……………26
挿図6	E調査区完掘遺構図……………13~14	挿図13	遺物実測図……………49~88
挿図7	掘立柱倉庫跡ピット断面図……………15	挿図52	

挿 表 目 次

挿表1	大井家ノ下モ遺跡出土土鍋口縁部 型式分類表……………17	挿表4	中世後半の陶磁器分類表……………22
挿表2	型式分類表による実測個体数…………17	挿表5	近世の陶磁器分類表……………23
挿表3	中世前半の陶磁器分類表……………22	挿表6	遺物観察表……………31~47

図 版 目 次

図版1	大井家ノ下モ遺跡発掘調査地 全体図……………89	図版5	(1) E・A・B区遺構検出中……………93
2	(1) 調査前……………90		(2) E区遺構検出中……………93
	(2) E区遺構検出中……………90		(3) B・C・E区遺構検出中……………93
	(3) E区遺構検出中……………90		(4) B・E区遺構検出中……………93
	(4) B区遺構検出中……………90	6	(1) E区遺構検出中……………94
3	(1) B区遺構検出中……………91		(2) E区遺構全体……………94
	(2) A区遺構検出中……………91		(3) E区 櫛列ピット……………94
	(3) E区遺構検出中……………91		(4) E区 倉庫跡ピット……………94
	(4) D区遺構検出中……………91	7	(1) E区 SBとSK……………95
4	(1) C・D区遺構検出中(東側から) ……92		(2) E区 SBとSK……………95
	(2) E区遺構検出中……………92		(3) A区 足跡……………95
	(3) E区遺構検出中……………92		(4) A区 足跡……………95
	(4) D区遺構検出中……………92	8	(1) A区 足跡……………96
			(2) A区 足跡……………96

図版 8	(3) A区 足跡……………96	図版 16	(3) E区取上げ N0349 ……104
	(4) A区 足跡……………96		(4) E区取上げ N0350 ……104
図版 9	(1) E区遺構・遺物検出中……………97	17	(1) 遺物 N0140(すり鉢) ……105
	(2) E区出土遺物……………97		(2) P 2 ……105
	(3) E区出土遺物……………97		(3) P 3 ……105
	(4) E区出土遺物……………97		(4) P 4 ……105
10	(1) E区出土遺物……………98	18	(1) P 8 ……106
	(2) E区出土遺物……………98		(2) P 10 ……106
	(3) E区出土遺物……………98		(3) P 11 ……106
	(4) E区出土遺物……………98		(4) P 18 ……106
11	(1) E区出土遺物……………99	19	(1) P 20 ……107
	(2) B区出土遺物……………99		(2) P 21 ……107
	(3) B区出土遺物……………99		(3) P 23 ……107
	(4) B区出土遺物……………99		(4) P 29 ……107
12	(1) E区出土遺物(墨書上等器) ……100	20	(1) P 30 ……108
	(2) E区遺構・遺物検出中 ……100		(2) P 32 ……108
	(3) E区遺構・遺物検出中 ……100		(3) P 33 ……108
	(4) E区遺構・遺物検出中 ……100		(4) P 35 ……108
13	(1) E区出土遺物 ……101	21	(1) P 41 ……109
	(2) C区出土遺物 ……101		(2) P 53 ……109
	(3) C区出土遺物 ……101		(3) E区 SK-1 ……109
	(4) C区出土遺物 ……101		(4) A区 足跡 ……109
14	(1) 遺物 N0142 ……102	22	(1) A区 足跡 ……110
	(2) 遺物 N0201~206……………102		(2) A区 足跡 ……110
	(3) 遺物 N0201~206……………102		(3) A区 足跡 ……110
	(4) 遺物 N0201~206……………102		(4) 足跡より出土した土鍋片 ……110
15	(1) E区出土遺物 ……103	23	(1) B区出土 木片 ……111
	(2) E区出土遺物 ……103		(2) B区出土 足跡 ……111
	(3) E区出土遺物 ……103	24	遺物 1 ……112
	(4) E区取上げ N0345 ……103	?	?
16	(1) E区取上げ N0346 ……104	44	323……………132
	(2) E区取上げ N0347 ……104		

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

県営佐治地区ほ場整備事業の実施が平成10年度、大井橋詰・家ノ下モ地区に計画されており、当該地近辺には大井3号墳、大井経塚および五輪塔群がある。また、大井地区は大井千軒跡の伝承のある土地であり、事前の調査が必要であった。

平成9年4月に佐治村教育委員会が踏査を行い、数片の上器を確認した。さらに、同年10月から平成10年3月にかけて実施した試掘調査では、ほ場整備事業計画のカット部分を中心に12箇所のトレンチ（170㎡）を設定し、遺構の有無、土層堆積状況、遺物の散布状況、遺跡の範囲等の確認に努めた。その結果、数基のピットと輸入陶磁器を含む多量の遺物を確認した。村道の北側（橋詰地区）の状況把握は不十分であるが、中世を中心とした集落遺跡であると推測された。

この遺跡の内、ほ場整備によって失われてしまう部分1,450㎡について記録保存のための全面発掘調査を行なうことになった。

第2節 調査の経過

遺跡は東西に貫流する佐治川の下流、南岸の河岸段丘上標高135mの地点に位置している。現地調査は発掘作業員10名で平成10年6月22日に開始し、平成10年10月7日まで行ない、10月18日の台風一過小雨の降る中、30名の参加者を迎えての現地説明会ですべての現地作業を終了した。調査地は水田、畑地となっており、重機を搬入しての掘下げは試掘調査の状況を踏まえて、表土（耕作土）の除去を目的とし、遺構の検出作業は人力で行った。遺物整理作業は整理作業員2名で8月から2月まで行なった。

確認された遺構は調査区西側の水田と畑に集中し、調査区東側の水田から遺構は検出されなかった。遺物はほぼ調査区全面から検出されたが調査区東側は水田造成時に遺構面がかく乱され、遺構が失われたものと推測できた。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

大井家ノ下モ遺跡は、鳥取県八頭郡佐治村大字大井字家ノ下モに所在する。遺跡は佐治川を千代川との合流点から5kmほど遡った上大井集落の東側に位置する。上大井集落から100mほど離れた山裾、標高135mの地点にあり、近くに大井3号墳、大井経塚跡及び五輪塔

群がある。

佐治村は鳥取市の南西部の人口約3,100人、面積79.89km²、東を八頭郡用瀬町、西を東伯郡三朝町と岡山県上齋原村、南を八頭郡用瀬町と岡山県加茂町・阿波村、北を八頭郡河原町に囲まれた山村である。標高600m～1,200mの中国産地の背稜部を構成する山脈に囲まれた谷間で、東西方向の流路を持つ千代川の支流、佐治川沿いに開けた村である。住民は東西方向につづく長狭な谷底平地とわずかに広がった台地の上に居住し、水稲栽培と二十世紀梨を中心とした果樹栽培を営んでいる。また、書道用紙を中心とした和紙の生産が盛んで、その歴史は古く、千年ほど前に始められたと伝えられている。

佐治村の地質は、佐治川中部以奥には古生代の深成岩が広く分布し、名石「佐治川石」の産地となっている。また、佐治川下流の南部（大井・刈地地区）には中生代白亜紀の花崗岩が分布しており、この地域の古墳はこの種の石材を多く用いている。

第2節 歴史的環境

狭小な地形にもかかわらず、村内には縄文時代中期頃から歴史時代に至るまでの各時代の遺跡が存在している。

縄文時代の遺跡には縄文後期の土器を出土した葛谷遺跡、縄文後期の石棒を出土したイヤノ谷遺跡、磨製石斧を出土した大段遺跡、佐治村で最古の縄文土器（縄文中期）を出土した上山根遺跡の4ヶ所が発見されている。

弥生時代の遺跡は中期からあり、佐治川南岸の河岸段丘上の大井3号墳で中期から後期の弥生土器、柱状片刀石斧、石包丁が出土している。この石包丁の出土で、平野が極めて少ない山間部でも水田耕作を行っていたことがわかる。そのほか大井の金鑄原遺跡、聖坂遺跡や高山の一軒原第3遺跡からは後期ごろの弥生土器が出土している。一軒原第3遺跡は千代川から奥に8kmも入り込んだ標高300mの山地にあり、弥生時代の人々の開拓精神の旺盛さがしのばれる。

古墳時代の遺跡は、大井聖坂遺跡、一軒原遺跡、同第2遺跡、同第3遺跡、同第4遺跡、金鑄原遺跡、葛谷遺跡、葛谷古墳群、大井古墳群、高山古墳群、貝尻古墳がある。10基見つかっているが、いずれも後期古墳で、佐治川沿いに開けた4ヶ所の沖積地に分布している。

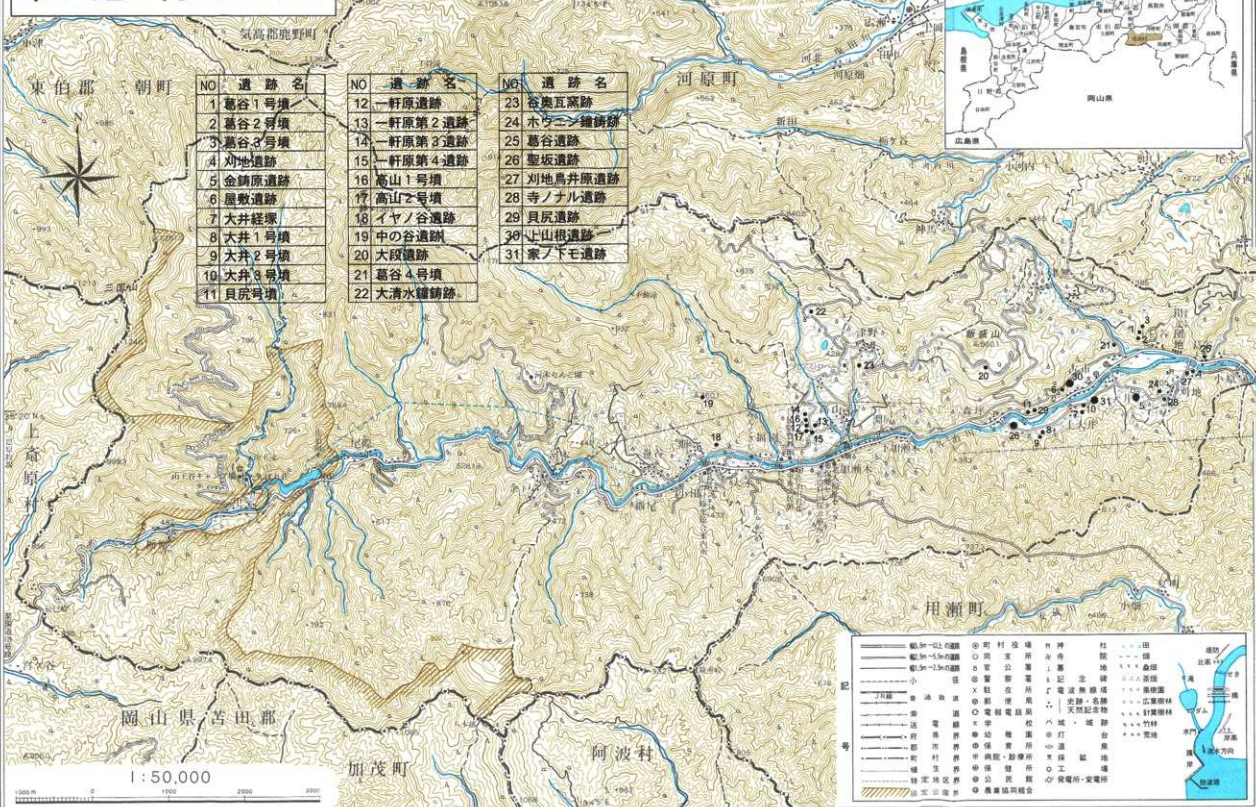
歴史時代の遺跡は、大井聖坂遺跡、貝尻遺跡、刈地鳥居原遺跡、大井経塚、鎌倉時代の地頭佐治四郎墓、今回調査した大井家ノ下モ遺跡などがある。

以上の遺跡のほとんどが、佐治川中流域から下流域にかけて分布するが、佐治川との標高差が100m以上の台地上に存在するものもある。換言すれば、村内の遺跡分布は古市周辺の沖積地及び高山周辺の台地上に分布しているといえる。

村内の遺跡は、今回発見された大井家ノ下モ遺跡を入れて31ヶ所となった。

佐治村全図

挿図1 佐治村位置図並びに遺跡分布図



第3章 調査の方法

第1節 調査区の設定

調査対象区域は、四面の水田と一面の畑（果樹園）約1,450㎡の試掘調査（平成9年度）によって確認された大井家ノ下モ遺跡である。

国土座標（V系）は、A調査区 X=-73860 Y=-15985（水田）

B調査区 X=-73845 Y=-15975（◇）

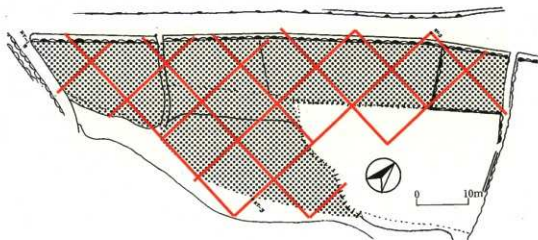
C調査区 X=-73825 Y=-15955（◇）

D調査区 X=-73810 Y=-15940（◇）

E調査区 X=-73850 Y=-15960（畑）

である。

本来ならグリッドを設定し地区割りを行なうべきであったが諸般の事情によりグリッドの設定は行わなかった。（E区のみ2mのメッシュグリッド設定）然し、現場の測量・実測等に支障をきたすため調査開始後10mおきに杭を打ち測量・実測等の基点とした。（挿図2）



挿図2 調査区全図（杭位置を含む）

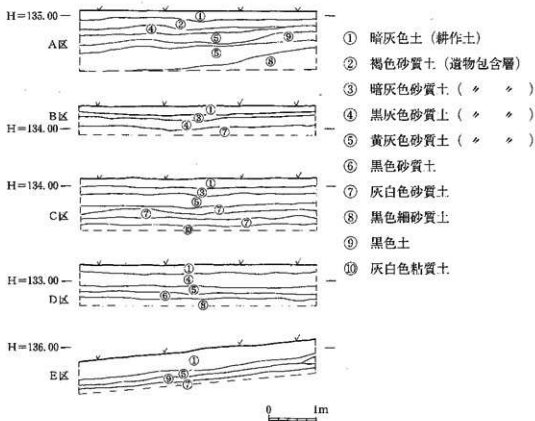
第2節 基本層序

本調査区は調査区全図にも見られる通り、2つの谷の土砂の流出によって形成された山裾といってもよい段丘状の小高い土地である。

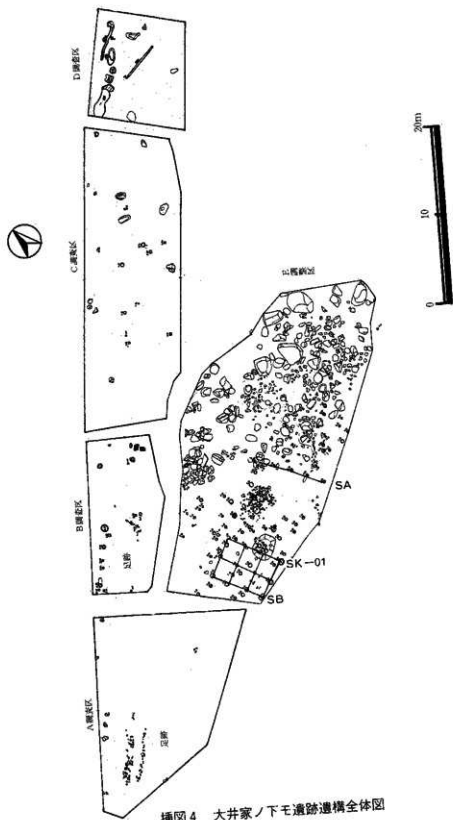
両谷とも中生代白亜紀の花崗岩地帯であり、A調査区は西の谷の、B・C・D・E調査区は東側の谷の影響を受けたと推測される。特にE調査区の畑は、いつの時代か不明であるがたぶん東の谷の氾濫・崩壊等々によって押し出された土砂が堆積し形成されたと思われる。現状は花崗岩質の巨石とか大・中・小の石が一面に見られ、いわゆる河原状の土地である。

各調査地共、15~20cmの暗灰色土（耕作土）があり、次に淡茶褐色土（床土）、次に遺物を包含している暗灰色砂質土が見られる。次いで黄白色砂質土、灰白色砂質土、灰白色砂層と花崗岩質の砂が混じった土層が続き、50~90cmで灰白色粘土層か灰白色砂層に達する。

A調査区で検出された中世の人の足跡も地表向下約90cm、黒色土中の足跡に灰白色の砂が堆積していたものである。



挿図3 各調査区土層断面図



挿図4 大井家ノ下モ遺跡遺構全体図

第4章 遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

『大井家ノドモ遺跡』は上大井部落の東、100m。佐治川の南約100m。中世代白亜紀の花崗岩によって形成された山裾に位置し、二つの谷より流出した花崗岩質の砂粒によって作りあげられた標高135m内外の台地である。

調査地には四区画の水田と一区画の畑（果樹園）があり、調査はA・B・C・D・Eの5調査区に分けて実施した。

調査総面積は、1450㎡である。

調査地周辺には、南西に大井3号墳、経塚跡、西約800mには大井1・2号墳、西約1kmには、大井聖塚遺跡（古墳から中世にかけての住居跡）、対岸の古市には屋敷遺跡（中世墳墓）、上山根遺跡（縄文中期）などがあり、古くからこのあたりは、「大井千軒」の伝承とか、有力地方武士の館があったとかわれている地区である。

小谷五郎氏（八束町）著「八頭郡の地名」（平成2年）に、!!家ノドという類の地名はどこにでも見られる地名で、この家は有力者の家乃至屋敷地を指しているが、この村の場合、この家ノド地域の古墳から鉄製の直刀や碧玉製の管玉、水晶製の切子玉が出土していることが、佐治村誌にくわしく述べられていることから考えて、普通の地名用語としての家の意よりも深く、古い意味をもつ地名とすべきかと思う。またここで、鉄製の直刀が出土している事に関連して、藤原地名があるのは、フジを吹息穴の略転で、産鉄に関する地名とする説をあてて見ることも必要かも知れぬと思う。!!という記述も見える。

試掘調査で生活用品と思われる土鍋・こね鉢等の破片が多数出土している事から、住居跡を想定し調査を始めた。

調査は全調査区、表土（耕作土）除去を調査員立会いのもとに重機で行なったが、「ほ場整備事業」のため後日耕作士が必要との事で調査区域外にすべて集約し山を作った。その後、人力にてA調査区より進めて行った。

A調査区では、多数の土器片と共に表土下約90cm、黒色土中に黄灰色砂粒によって堆積した、人の足跡と思われる遺構を検出した。足跡数約60～70個、畝をはさんで両側にある溝を人々が行き来したという状況が把握できるものであった。また、この足跡の一個から中世の土鍋片を採取した事からこの足跡は中世の人々の足跡であると推測することができる。（挿図5図、図版7一（3）・（4）図）

この調査地は前述した谷の、西の谷より流出した花崗岩質砂粒の影響を多大に受けてい

ると考えられる。

B調査区はA調査区の東隣り約120㎡の面積をもった水田である。

この調査区ではピット 10穴、A調査区と同じような足跡を検出している。ピットには規則性がなく、水田であった為のピットと考えられるものもあった。足跡もA区ほど鮮明でなく灰白色砂質土中より検出されたものである。

ここでの出土遺物は土鍋の破片がほとんどであったが中に一片、石鍋片が出土している。

石鍋は滑石で出来ており石製生活用具の一つであると考えられているが、ここでは、広島県立歴史博物館発行(1998)の「草戸千軒町遺跡出土の滑石製石鍋」をもとに一考察して見たい。

滑石製の石鍋は、西日本を中心とする古代末から中世にかけての遺跡で出土しており、その多くは長崎県の西彼杵半島一帯を原産地と考えられている。

家ノドモ遺跡調査では他に試掘時の排土中より一片、B調査区で一片、E調査区で二片(挿図41 図版37)合計四片出土している。九州の西で作られた石鍋がどんな経路によりこの佐治にはいつて来たものであろうか。興味もたれるところであるがその研究は後口を待ちたい。

C調査区は、面積約310㎡で横長の水田である。

ここではピット8穴と数個の石を検出しているが、遺構と結びつけられるものではなかった。出土遺物も、土鍋片(口縁部)多数、土錘、中世磁器片を検出している。特に、中世磁器片については後述するように、中国、龍泉窯・同安窯の青磁・青白磁も含まれており、当時としては高級陶磁器と思われるこのような磁器が如何なる手段で、どんな人の手によってこの佐治の地にもたらされたものか、石鍋と共に今後の研究をまちたい。

D調査区は、A・B・C調査区より一段低い(標高差約1m)水田である。

本調査区では、落ちこみ5ヶ所、ピット2穴を検出したが、落ちこみも不規則であり、遺物も採取しなかった。また、D調査区全体でも採取した遺物は数個であるところから、遺物包含層は数度の削平によって排除されたものと思われる。

落ちこみ、ピット共に水田耕作に関係して作られたものと推察される。

E調査区は、大井家ノドモ遺跡調査区で最大の面積をもち、A・B・C・D調査区の南に(山側)位置する。(挿図4参照)

そして挿図第6図にもみられる通り約きは、東側の谷から押し出したものであろう、花崗岩質の大小無数の石原となっている。中には5・6個の巨石も含まれているが、この石原の黄灰色砂質土層(挿図3-E)から遺物を多数検出している。主として土鍋の口縁部片であったが、中に石鍋片(滑石製)、かなりまとまった固まりとして瓦質土器・墨書跡の見える瓦質土器(カワラケ)、中世磁器片等があった。

石原は東側³程度であるが西側³でピット72、土坑1を検出している。

いずれのピットからも遺物は検出されなかったがピットを種々検討した結果、掘立柱倉庫跡（総柱）1棟、柵跡1列を確認することができた。

倉庫跡は柱と柱の間（1間）が約225～230cm、ほとんどのピットで土台にされたと思われる石を検出している。（中にうもれたもの。表面に顔を出しているもの等、さまざまである）

土坑（3×2.5×0.10m）を1つ検出したが、その性格を明らかにすることは出来なかった。

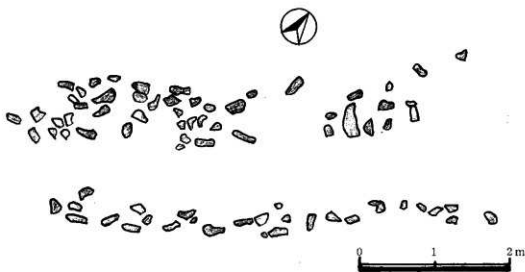
出土遺物から、中世の住居跡の可能性が大である。

第2節 遺構と遺物

○ A調査区

ピット、落ちこみ等皆無。特筆すべきは足跡である。表土下0.73m～0.99mの間に、約70個の跡が検出されている。約1mの畝をはさんで両側に約6m。大小の跡が見られる。

（挿図5）



挿図5 A調査区足跡

いずれの跡も15cm～20cm、土中に埋まったものと思われる。跡は、黒色土中に残っており、跡の中には黄灰色砂粒がつまっており、検出は容易であった。

足跡については考察の項で、田中精夫氏の論文を参照していただきたい。

本調査区では出土遺物数は約370個体であるが総て破損した個体であった。中でも一番

多かったものは土鍋の口縁部である。

本調査で実測した土鍋口縁部は92個体（遺物観察表）であるが、佐治村教育委員会では類型分類できないものかと一考察を加えて見た。（挿表1 分類表）

本調査区ではⅢの型が多いようである。即ち、外反する頸部、内湾して立ち上る口縁部口縁端部は外傾する面をもつものであり、瓦質のものが多く須恵質のものは数個体にすぎなかった。

いずれの個体も外面に煤が付着しており、日常の炊飯に使用されたものと考えられる。

○ B調査区

遺構として、ピットと足跡を検出している。ピットは10穴であるが、住居とか柵とかの規則性がなく特定の遺構とは断定できないものであった。

A調査区に続いて足跡を検出したが、Aほど鮮明でなくまた数も少ないものであった。

出土遺物も土鍋片を中心に100個体ほど出土したがいずれも破壊されたものであり、完全な形で出土したものはなかった。

出土遺物で特筆すべきものが1個体出土している。それは、石鍋の一部分である。

口縁部の外面に断面が台形の鈎がめぐり、口縁端部は水平な面を持ち、体部は内湾し外面は部分的に煤が付着している。

広島県立歴史博物館（福山市）の資料によると、（草戸千軒遺跡発掘調査報告より）

!!「石鍋」草戸千軒では土鍋・鉄鍋のほか鎌倉から南北朝時代にかけては滑石製の石鍋も使用された。これは、長崎県西彼杵（西ソノギ）半島で製作されたもので、鎌倉や北陸の普正寺遺跡などからも出土しており、広域の流通商品の一つである。!!とある。

本調査区から出土したのも滑石製であり、内外面とも滑らかに磨かれている。内面の色は灰色、外面は灰黒色である。（挿図41 図版37）

中世陶磁器も出土している。

本調査区全体では、輸入・国産と思われる310片の中世磁器を検出しているが、B調査区でも輸入磁器を検出している。

挿図(45～48)・図版(39～42)の遺物番号 243・244・245・255・266・272・282・285・288・等がそれである。

陶磁器・石鍋については、第5章 第2節に、八崎 興氏に詳細を述べていただいているので参照して欲しい。

○ C調査区

たて約10m、横約31m、面積約310㎡の水山である。

ここの遺構としては、ピット8穴を検出しているが並び等が不規則であり、水山であっ

た事とあわせ、何等かの遺構であったと確定するに至らなかった。

遺物は調査地ほぼ全域、表土下0.2~0.3m暗灰色砂質土層、0.3~0.5m黄灰色砂質土層から数多く検出しているが、A・B調査区と同様、原型をとどめているのは土錘のみであり、土鍋・羽釜・こね鉢・すり鉢等、総て破壊されたものであった。

全調査区で土錘は26個出土しているがC調査区ではその内の10個を検出している。

中世磁器も検出されている。即ち遺物番号、246輸入陶磁-青磁碗、251輸入陶磁-白磁皿、257輸入陶磁-青磁碗、262輸入陶磁-青磁碗、263・264輸入陶磁-青磁鉢、268輸入陶磁-白磁碗、国産陶磁器としては、277、278-すり鉢、279-瀬戸灰釉鉢（すこし疑問があるが）、283・291・296などである。

本調査区Cは、全般的に砂質土であった。たぶん、東の谷より流れ出た花崗岩質の砂礫によって形成された土地と考えてよいだろう。

○ D調査区

D調査区は全調査区の最東端であり、標高がC調査区より約1m低く、約120㎡の水田である。（挿図2）

ここでは意味不明の落ちこみを5つ、ビット2穴を確認した。いずれも本調査地が水田であることから思い合わせ、水田との関係において作られたものと結論づけた。

遺物はほとんど検出しなかった。

遺物を検出できなかった事については次の事が考えられる。

東の谷から流出した砂礫はE・C調査区と同じように堆積したと思われる。それがC調査区より約1m低いという事は、人為的に削平されたという事である。そのために、遺物を包含していた層が除かれたという事であろう。

○ E調査区

E調査区はB・C調査区の南側、山際にあり、東の谷から押し出したと思われる花崗岩質の巨石をはじめ大・中・小の石が不規則にゴロゴロと調査地の半分以上を埋めている約550㎡の畑である。

以前は果樹園だったとか。石をさけて梨の木が植わっていたものであろう。

調査は無数にある石と石の間の土砂を取り除くことから始めた。

表土下0.4m~0.5mあたりまで耕作土であり、遺物は耕作土下部からかけて次の黄灰色砂質土層で多数検出された。

遺構は畑の西部分で検出されている。

結論からいえば、掘立て柱による2間×3間の倉庫跡、部落と折袴所を区別するための欄列跡と考えられる2つの遺構である。

そのほか、中心あたりに石を配した落ちこみを検出したが、調査を進めるうちに、倉庫



挿図 6 E 調査区完備遺構図

の掘立て柱の位置に包含された遺構になった。

ピット数も、72とかなりの数を検出したが結局、掘立て柱による倉庫を1棟、柵列を1列しか確認することができなかった。

また、大小の石は当時(中世)の屋敷内にあった築山の石ではないかという説も浮上したが、築山にしては石の並びが不規則だという事で、この石は背後の山、調査地の東の谷の山がいつのころか崩壊し、川の氾濫によって押し出され、石と石の間を埋めている土砂中から多量の遺物が検出されていることからその時代の住居を破壊し、堆積したものと考えられる。

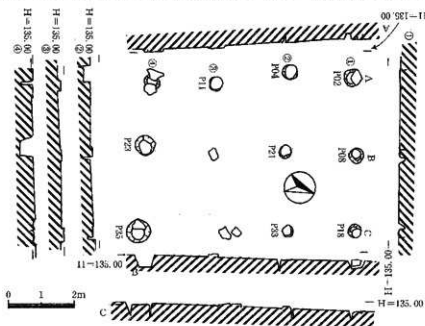
その時代とは、検出された中国より輸入されたという陶磁器とか、出土石鍋(広島県立歴史博物館、鈴木学芸員によると、13世紀代に比定できるという)等により、13世紀代に比定できる住居跡(倉庫跡)と推測できる。

端的にいうと中世の住居跡という事である。

掘立て柱による倉庫跡はE調査区の南西部分より検出されている。(挿図6)

2間×3間の総柱であり、たて約4.5m×よこ約6.5m、12本の柱によって構成され、床は地面より一段と高かったと考えられる。柱のピットには石が底に入れられ、沈みこみを防いでいたと思われる。(挿図7)

当時の1間巾は現在の1.8mより少し長く、大体、2.15~2.30mぐらいあったと考えられる。またこの倉庫は部落はずれに建てられており、部落民全体のために使用されたものだったのか、あるいは、当時の有力者の屋敷に建てられていた倉庫なのか定かでない。



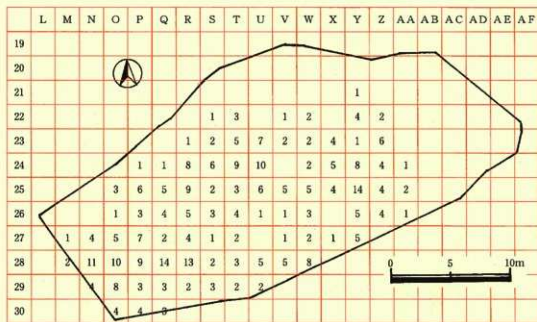
挿図7 掘立て柱倉庫跡ピット断面図

倉庫跡ピットは、A①-P02、B①-P08、C①-P18。A②-P04、B②-P21、C②-P33。A③-P11、B③-石、C③-石。A④-石、B④-P23、C④-P35。である。いずれも掘立柱は、ピット、石の台で固定し、建てられていたと考えられる。

倉庫より東方10mに、橋列跡が検出されている。

ピット、P61、P60、P59、P58、P56を結ぶ線で、この橋列東方石原の中より土師の瓦器（中に1個墨書の瓦器 挿図44-211 図版12-1がある）が多数検出されており、巨石を含め祭祀場ではないかと考えられる。よってこの橋列跡は、住居地帯と神聖な場所、祭祀場を分けるための橋列ではなかったかと思われる。

遺物はE調査区全域から検出している。（挿図8）



挿図8 E調査区グリッドと出土遺物数

（遺物台帳記載分）

上記遺物出土数は一応まとまった面積、まとまった形をしている遺物であり記録にとどめていないが（ネーミングはすべて記入）破片はかなりの数に達している。

遺物番号を付して取上げたE調査区の遺物は、土鍋片（須恵・土師）60、羽釜・鈔付土鍋片21、こね鉢片11、石鍋片2、瓦器42、土錘6、他に輸入陶磁器・国産陶磁器少々、石器少々であった。

挿表1 大井家ノ下モ遺跡出土土銅口縁部型式分類表

型	1	2	3	4	分類基礎資料 (形態上の特徴)
I					口縁部は折れ曲らず、外傾する。
II					口縁部は「く」の字型に折れ曲り、外方にひらく。端部は内傾する。
III					口縁部は「く」の字型に折れ曲り端部は肥厚する。
IV					口縁部は「く」の字型に折れ曲り。端部の外面は丸く、内側に肥厚する。
V					その他の特徴を持つもの。

挿表2 型式分類表による実測個体数

類型	調査区					計
	A	B	C	D	E	
I	1	1			2	3
	2				2	2
II	1	1	1	1	4	7
	2	1	1	1	1	4
III	1	3		2	7	12
	2	5	2	1	30	38
	3	1			6	7
	4	1	1		3	5
IV	1	2		2	3	7
	2	1		1		2
V			3		2	5

出土遺物中多量にわたったのが上鍋片である。その数60あまりであった。あまり多量であったのでこれの類型分類を試みた。(挿表1)

I型は最も素朴であり技術的にも劣っており、時代的にも出土土鍋ではいちばん古い時代であると考えられる。

II型以降は外傾していた口縁部の端部が内傾し、口唇部が形よく外傾か内傾して来たことである。技術的にもかなり高度であり、美的な口縁に仕上げている遺物である。

鈔付十鍋片・羽釜の類も20片ほど出土している。(挿図30・31・32・33)

ほとんど瓦質土器であり、鈔部分はかなり精緻に仕上げられている。いずれも口縁部分のみであった。

こね鉢片は中央部北西で5片、西部北西で2片、西部SK-1付近で4片出土している。ほとんどが須恵器であり、口径も22cm～28cm内外を測るものである。遺物番号121はT-23のグリッドから出土した口径約36cmを測る片口付きのこね鉢である。この鉢は12世紀後半から13世紀にかけての東播系須恵器と考えられる。

(挿図36 図版35)

120・123等、挿図に片口を実測しているが、こね鉢すべてに片口が作られていたかどうかは不明である。

E区では石鍋片が2片出土している。NO165・167共に内外面ともにノミ状器具で調整され、丁寧に磨かれたものである。165は鈔も残っており全体を知る手がかりを多分に残している遺物である。167はどの部分か特定できない小片であったが滑石であり磨かれたものであった。

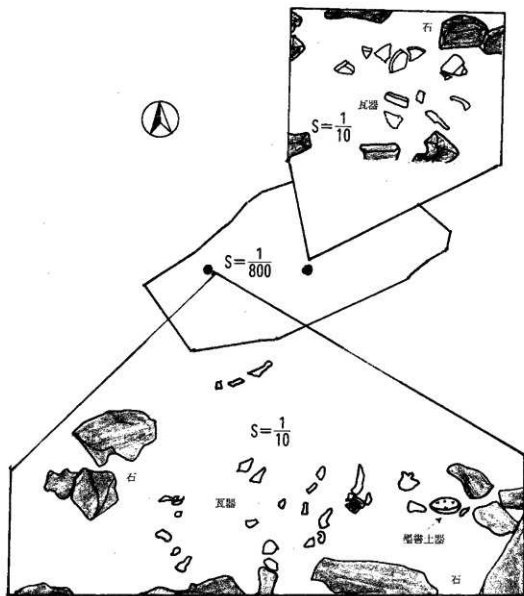
土師器の坏も多数検出されている。ほとんどが、にぶい橙色であり中に1個だけ墨書されたものがある。(挿図43-211 図版38-211)

これは手で捻って作られたものである。口縁部は指でつまんでもち上げわずかに外反させている。内側に墨書がある。墨書内容は挿図、図版でも判るように、口縁端部を6等分する線、山のような字か符号、ある新聞社の報道によると祭祀器具であり、地鎮祭に使用されたものではなかろうかというが、本村教委ではまだ未確認である。

遺物NOを付した瓦器(土師器)168～215の内、実に42個はE調査区より検出されたものである。

この様に多量に瓦器が出土したという事は、ここが何等かの形で祭祀に関係した場所であったと推論しても良いと思う。古墳時代以降、石崇拜の信仰がこの地方でも見られた一面ではなかろうか。

この瓦器は42個のうち34個が「手づくね整形」である。ロクロ整形と思われるものは8個。お祭りをする度に自分達の手によって日常生活用品の模造としてのミニチュアの瓦器



挿図9 墨書土器・瓦器出土位置と見取図

が作られ、祭後は廃棄されたものであろう。

土鍾は全調査区で27個検出され、本調査区は、その内の6個である。

5個共に土師器であり中間が膨らんでいるどこでも見られる素朴なものであった。

他に、中国の龍泉・同安窯で作られた陶磁器を含む輸入陶磁器・国産陶磁器を検出しているが、これについては、八峠 興氏に指導を受け論文を載いているので、第5章、考察の項「大井家ノドモ遺跡出土の陶磁器と石鍋について」を参照していただきたい。

第5章 考 察

第1節 家ノ下モ遺跡について

県営ほ場整備事業に伴う大井家ノ下モ遺跡の発掘調査によって、中世（13C～14C）の倉庫とか櫓列とか、当時のものと考えられる足跡、当時人々が使用していたと思われる生活用具（土鍋等）、また遠くから流通したと考えられる石鍋、中国から輸入された陶磁器など、貴重な遺構・遺物が明らかとなった。

所在地は大井部落の東、小字家ノ下モであり、南から北に向かって形成されている小さな2つの谷の口にあり谷より流れ出した土・砂の堆積により作られた段丘状の土地である。

本調査区には、四面の水田と一面の畑がある。（水田は西より、A・B・C・D調査区、BCD調査区の南側の畑をE調査区）畑の約半は二つの谷の東の谷から押し出されたと推測される上石流によって、巨石・大中小の花崗岩質の石が無数にあり、畑の作物（上として梨の果樹園）は、石と石の間を利用しているのが現状であった。

調査の結果、A調査区から足跡の遺構（B調査区にも若干の足跡あり）、E調査区で、掘立て柱の倉庫跡、櫓列跡を検出した。

A調査区から検出した足跡は、表土下約90cmの所であり、足跡の一つから上鍋の口縁片も検出している所から、中世の足跡であると推論したものである。

1mあまりの畝をはさんで両側に約6mあまり。大きなものや小さなもの、半ではないかと想像させる小さなものまで大小混せて約70個。

B調査区でも足跡を検出したがA調査区ほど鮮明でなく、小さな落ち込みと思われるようなものも混じっていたようである。

本調査区で検出された陶磁器も総て破片であったが、聞くところによると数ではこれほど多く出土した例は県内ではあまり例がないという事であった。それも、当時でも貴重であったと思われる中国の同安窯・龍泉窯で焼かれたものまで混じていた事はおどろきである。どのような経路で、この佐治に流通して来たものか今後の研究をまちたい。

もう一つ、この地方では作られていなかった石鍋。その破片が検出された事も意義のあるものである。

掘立て柱倉庫跡がE調査区（畑）の西南方向で検出されている。

A-①・②・③・④、B-①・②・④、C-①・②・④にはピットに付随して石が配されており、B-③、C-③にはピットはないが、掘立て柱の台にしたのではなかろうかと推測される石が配されている。

12本の柱が建っていたと考えられるが、12本とも石が配されていることから、柱穴を掘つ

て柱を固定するといった単純なものではなく、柱穴の中へ石を埋めこみ、柱にかかる重量によって柱が沈下するのを防いでいたと考えられる。

柱穴は南側（山側）が高くなっており（挿図7）。④→①へA列の高低差 0.35m、B列 0.25m、C列 0.30m。である。また、東西の高低差は、①列 0.05m、②列 0.25m、③列 0.10m、④列 0.10mとなっており、東西間はほとんど水平といってよい数値となっている。

平面形は長方形であり東西軸約4.5m、南北軸約6.5mを測る。倉庫の面積を柱穴によって想定すると約29㎡を測る。

他のピットより考察できるものとして、正方形のお堂らしきピットも検出したが倉庫跡と復合することから確認するに至らなかった。

E調査区では70数穴のピットが確認されたが調査前の現状が果樹園という事で、肥料穴・支柱穴等多数あり、遺構の検出には困難を極めた。

この調査区では倉庫跡の他に欄列跡を検出している。

調査区のはほぼ中央、南から北へ、P61・P60・P59・P58・P57（あるいは56か）7.5mを測る欄列である。ピット間の距離は、P61⇄P60 2m、P60⇄P59 2m、P59⇄P58 2m、この3間隔は正しく2mを測るものである。P58⇄P57間は1.5mでありP58⇄P56は正しく2mある。

南から北向きの欄列最終杭は、P56だったかも知れない。

また底面の高さを見ると、P61-135.24m、P60-134.92m、P59-134.84m、P58-134.83m、P57-134.68m（P56-134.62m）であり、南から北向きでは、0.56mの高低差である。

推論するにこの欄列を境とし、西側は部落の人々が生活する生活圏、あるいは有力者の屋敷、東の石原は、瓦器等がたくさん出土していることから祭祀を行なう神聖な場としていたのではなからうか。

墨書瓦器が一つ出土している。

これは手でこねて形を整え焼き上げた瓦器である。まず円をほぼ六等分し（円筒部分のみ）等分線の中側に符号か字か不明であるが書かれたものである。ある新聞社の遺跡にくだしい記者によると『地鎮祭用の用具』であるという。

これも今後の研究材料の一つであるようだ。

第2節 大井家ノ下モ遺跡出土の陶磁器と石鍋について

八峰 興

1. 中世陶磁器

中世の陶磁器は、中国産の白磁20点、青白磁6点、青磁94点、染付け1点、褐釉1点、国内産として瀬戸美濃の陶器7点が出土している。中国陶磁器は中世前半のものは山本分類(山本1995)、中世後半は森田分類(森田1982)に基づいて分類している。

中世前半の白磁は、口縁が玉縁状になるⅣ類碗243、Ⅲ類皿251・252、口禿げのⅨ類碗268・Ⅸ類皿269～274、輪花文を施す器壁の薄いⅩ類碗などがある。最も多いのがⅨ類皿で概ね13世紀頃である。その他白磁壺Ⅲ類247、四耳壺の破片も出土している。

青白磁は碗、皿、梅瓶、合子蓋・身などがあり、花卉部の細片もみられた。

青磁は龍泉窯系が中心で、中でも鎮連弁文碗Ⅰ-5b類は62点と最も多く出土した。254～262・265・266・279がこれにあたる。他に内底に文様をもつ碗264、内底に劃花文をもつ263や内面に漆の痕をもつ劃花文碗などもある。また同安碗に類似する龍泉碗0類も1点みられた。香炉の可能性のある口縁部も出土している。時期がさらに下ると畳付けの釉をカ

挿表3 中世前半の陶磁器分類表

白磁	器種	分類	数	計	青磁	器種	分類	数	計
◇	碗	Ⅳ	1	1	◇	龍泉	碗	0	1
◇	◇	Ⅸ	1	1	◇	◇	Ⅰ-1?	1	1
◇	◇	Ⅵ～Ⅶ	3	3	◇	◇	Ⅰ-1～4?	2	
◇	◇	Ⅹ	1	1	◇	◇	Ⅰ-2～3	4	
◇	皿	Ⅸ-1a～c	3		◇	◇	Ⅰ-2-4	2	
◇	◇	Ⅸ-1d?	3	11	◇	◇	Ⅰ-5?	1	
◇	◇	Ⅸ-2	1	1	◇	◇	Ⅰ-5a?	1	
◇	四耳壺	Ⅲ	1	1	◇	◇	Ⅰ-5b	62	
◇	壺類	Ⅲ-1	1	1	◇	◇	Ⅰ-5c	2	77
青白磁	碗		1	1	◇	◇	Ⅲ-2	1	1
◇	皿		1	1	◇	◇	Ⅳ?	3	3
◇	梅瓶		2	2	◇	◇	Ⅳ～	2	5
◇	合子蓋		1	1	◇	環	Ⅲ	1	1
◇	◇身～皿		1	1	◇	盤～大環	Ⅲ	1	1
褐釉	合子身		1	1	◇	碗～環	Ⅲ	2	2
					◇	香炉	Ⅳ	1	1
					同安	皿	Ⅰ-1b	2	2

挿表4 中世後半の陶磁器分類表

白磁	器種	分類	数	計	青磁	器種	分類	数	計
◇	碗	森田A?	2	2	◇	細線連弁		1	1
◇	皿	森田E?	1	1	◇			1	1
瀬戸	天目碗		3	3	染付け	碗	スワトウ	1	1
◇	碗		2	2					
◇	皿		2	2					

キ取る246の坏皿、267の碗IVなどがある。時期は前後するが内底に櫛目文をもつ同安皿も2点出土している。褐釉の合子身289もある。

中世後期は白磁、青磁、染め付けなどの中国陶磁器に加え国産陶器も出上する。白磁248・249は13～14世紀頃。248は外面に化粧土が白く付着する。250は16世紀で福建付近か。250はスワトウで16世紀末～17世紀前葉とみられる。国産陶器は瀬戸・美濃で、291・292が天目碗、288が碗、290が皿でいずれも14～15世紀のものであろう。

このように中世の陶磁器は、中国陶磁器は山本編年のD～G期、12世紀後半から14世紀後半までであり、白磁Ⅸ類や龍泉窯系青磁Ⅲ類が多いことからE～F期、13世紀代頃を中心としている。ただし瀬戸・美濃および中国陶磁器には14～15世紀に下るものもあり、中心となる時期は13世紀後半から14世紀頃を中心として考えておきたい。15世紀代になると遺物が極端に減少し、近世までの間は空白期となる。

2. 近世陶磁器

近世の遺物は肥前陶器20点・磁器19点、関西系陶器2点、中国地方の陶器5点が出土している。16世紀末から19世紀頃までである。不明は11点、近代以降は2点ある。

肥前陶器は、碗・皿・片口鉢・摺鉢・壺が出土している。磁器生産開始前のもので、薬灰釉の碗276および灰釉陶器が出土している。灰釉陶器は削り出し高台で内面胎土目積み痕をもつものがある。折口皿も1点出土している。293・294は京焼風の御器手碗で、294の底部は壺付以外に黄灰色の釉が施される。17世紀後半から18世紀初頭か。

287は嬉野付近のもので、内面は蛇の目釉剥ぎで外面透明釉、内面濃緑色釉を施す。17世紀後半～18世紀前半か。280・284は胎土が灰色の陶胎染付で18世紀前半頃か。計4点ある。275は刷目陶器の口縁部で同時期とみられ、計2点出土している。282は片口鉢の口縁部で刷毛目装飾を施し、17～18世紀か。281は摺鉢で口縁部のみに鉄釉を施す。17世紀後半か。286は壺の口縁部でタタキ成形、17～18世紀とみられる。

肥前磁器は染付け・白磁が出土している。古いものでは17世紀中葉頃の離日芝文の皿または鉢、おそらく「大明成」と外底にある網目文のある小壺297がみられる。296は染付け

挿表5 近世の陶磁器分類表

時期	肥前陶器				肥前磁器			関西		中国地方			合計			
	碗	皿	片口鉢	摺鉢	壺	碗	小坏	皿	瓶	鉢	瓶	灯明皿		摺鉢	壺	徳利
1580～1630	5	3														8
～1650						1		1								2
～1700	2	1		1		2	1	3								10
～1750	5					4	1		2							12
～1900	1		1		1	3		1		1	1	1	2	1	1	14
合計	13	4	1	1	1	10	2	5	2	1	1	1	2	1	1	46

碗で17世紀後半から18世紀前半、同時期とみられる針痕のみられる白磁小壺244や瓶もある。さらに時期の下るものとして245・253の白磁、見込みを釉剥ぎし外面薄緑色のコンニャク印判を押すものもある。概ね18世紀代とみられる。

関西系陶器はわずか2点であるが、いずれも18～19世紀のものであろう。

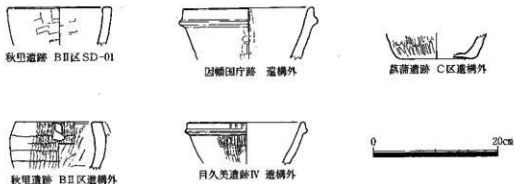
中国地方のものともみられるものはいずれも陶器で、備前はわずか1点である。278は摺鉢の口縁部である。須佐周辺のものか。この他石見付近とみられる破片や灯明皿などもあるがいずれも18～19世紀のものと考えられる。

このようにみると、近世の陶磁器は肥前が中心で17世紀の中葉から18世紀代にかけて多く出土していることがわかる。ただしこれらの中には特別な遺物は出土していない。したがって近世にはこの地が一般的な集落の一部となっていたことがうかがえよう。

3. 石鍋

県内での石鍋の出土は、因幡国庁、秋里遺跡、菖蒲遺跡、日久美遺跡であるが、4点もの石鍋が出土したのは県内では大井家ノ下モ遺跡だけである。この石鍋は木戸分類のⅢーb類（木戸1995）で、鈎をもち径の小さな底部から大きく開くものである。概ね13世紀代と位置づけられ、白磁・青磁などの中国陶磁器とはほぼ同年代を示すものといえよう。この石鍋はこれまで長崎県の西彼杵郡付近が生産地とされてきたが、材質による分析も進んでいる（中島1998）。時期は秋里遺跡のものが11世紀頃、他は13世紀頃で大井家ノ下モ遺跡とはほぼ同時期である。島根では石見を中心とした西側に集中する傾向がみられる。

このように大井家ノ下モ遺跡は県内でもまれな中世を中心とした遺跡で、出土遺物からみても当時貴重品であった石鍋や陶磁器がかなりの割合で使用されており、今後これを裏付ける文献資料等の対照が期待される。またこれらの陶磁器・石鍋は在地上器と異なり、



挿図10 鳥取県内出土の石鍋

中世後半の流通を考える上で貴重な例であり、この問題を含め今後の研究の進展が望まれる。

最後に中世の中国陶磁器の分類について山本信夫氏、近世陶磁器の分類について大橋康二氏に御教示いただきました。末筆ながら感謝申し上げます。

参考文献

- 森田 勉 1982 「14～16世紀の白磁の分類と遷年」 貿易陶磁研究No2 日本貿易陶磁器研究会
山本 信夫 1995 「[2]中世前期の貿易陶磁器」「中世の土器・陶磁器」 中世土器研究会編 真臨社
木戸 雅寿 1995 「13. 石罎」 同上文献
中島伊次郎 1998 「滑石製石罎研究の現状と課題」 九州土器研究会会誌 第9号 九州土器研究会

第3節 大井家ノ下モ遺跡出土の足跡に関する所見

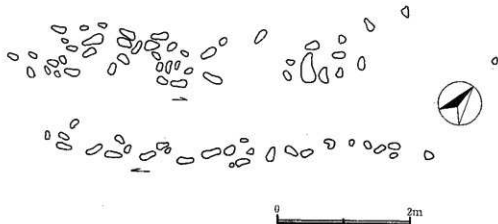
田中 精夫

1. はじめに

遺跡の南西区（A区画・B区画）において、足跡が計15mにわたって検出された。足跡を検出した土層は、現水田の客上下層の暗褐色土上であり、この層上に黄褐色砂の落ち込みがあり、これを掘り下げたところ足跡が確認できた。A区画では、足跡が2条にわたって約6m遺存しており足跡の状況がわかるので、これについて言及してみたい。

2. 足跡の状況

A区画の2条の足跡は、左右の足が交互にたどれ、一方向に進んでいることがわかる。A区画北側の足跡は、幅60～80cmの範囲内に収まり曲線状に北東方向に足跡が進行してい



挿図11 足跡検出状況（A区画）

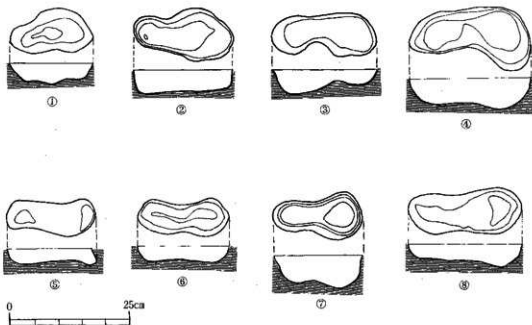
る。足跡の形状が2タイプ以上見られ、複数の足跡が認められた。A区西南側の足跡は、幅30~40cmの範囲内に収まり曲線状に南西方向に足跡が進行している。南側のものは、ほぼ真っ直ぐ進行した形跡が伺える。A区西南側と北側の足跡間の距離は、中心から概ね1.4m隔っており、等間隔であること、検出面が暗褐色土層上であることから、この間に稲が植えられていたものと想定される。足跡の深さは、概ね3~5cmで、最深部で7cmある。

3. 足跡の形状

A区画の足跡のうち、人の足跡8点を石膏で型どりし取り上げた。これを実測して形状を観察した。

足跡の形状から、3タイプの足跡（左足のおよその長さ：18, 22, 25cm）が想定され、およそ3人の足跡と考えられる。足跡は前方部が広がり、土踏まずがよく発達している。

No	部位	長さ	爪先部の長さ	踵部の深さ	土踏まずのへこみ	形状
①	左足	17.6 cm	3.3 cm	3.6 cm	不明	前方部発達・くびれ少なし
②	左足	21.1 cm	3.8 cm	4.8 cm	1.0 cm	前方部発達
③	左足	22.1 cm	3.3 cm	5.0 cm	1.8 cm	前方部発達・くびれあり
④	左足	25.6 cm	6.3 cm	5.4 cm	0.9 cm	前方部発達・くびれあり
⑤	右足	18.8 cm	3.5 cm	3.2 cm	0.7 cm	前方部発達・長方形
⑥	右足	19.3 cm	3.4 cm	3.0 cm	0.5 cm	くびれ少なし・長方形
⑦	右足	18.8 cm	7.0 cm	5.6 cm	0.8 cm	前方部が発達・くびれあり
⑧	右足	24.0 cm	4.7 cm	3.0 cm	0.5 cm	前方部が発達・長方形



挿図12 足跡実測図（石膏型どり）

4. 県内の出土事例

県内のこれまでの調査で6遺跡で足跡が検出されている。弥生時代前期～中期後葉のものが米子市日久美遺跡（『日久美遺跡』1986.3米子市教育委員会）の水田跡で見つっている。ここでは多数の足跡が見つかり、痕跡は深いもので25cmもあり、湿田状態を示している。弥生時代後期のものが米子市池ノ内遺跡（『池ノ内遺跡』1986.3米子市教育委員会）の水田跡で検出されている。ここでも多数の足跡が見つかり、歩いた方向がわかるものもある。淀江町井手脛遺跡（『井手脛遺跡』1993.3鳥取県教育文化財団）では弥生時代から古墳時代にかけて足跡状のものが約7mにわたって検出されている。

中世から近世にかけてのものは、米子市錦町第1遺跡（『錦町第1遺跡』1996.3米子市教育委員会）で鎌倉時代の牛の足跡が斜面の畝に沿って検出されている。羽合町長瀬高浜遺跡（平成10年度に調査中）でも同様の牛の足跡が検出されている。鳥取市秋里遺跡（『秋里遺跡Ⅲ』1979.3鳥取市教育委員会）では、近世の水田跡で水田を4～5往復したとみられる足跡が検出された。

県内における足跡の検出例は少なく、規則性も把握しにくいことから、当時の人の足の特徴を把握することは困難である。しかしながら、今回いくつかのサンプルを取りあげたことにより、足の特徴をわずかばかりだが窺い知ることができた。前方部がよく開き、土踏まずのへこみが深い足は、現代人には見られないものである。データが増えることにより当時の人々の身体的な特徴を知ることにも可能である。ただ、今回の調査では、すべての足跡の詳細な記録がなかったため体重移動の状況などについて詳細な検討ができなかった。検出時点で足の凹凸状況、指の痕跡など詳細なデータが記録されていなかったためである。今後は、足跡から読みとれる情報をできるだけ収集し、当時の人の特徴を明らかにすることが必要と思われる。

ま と め

ほ場整備事業によって消滅する家ノ下モ遺跡の発掘調査が、平成10年6月22日より約9ヶ月間行なわれた。

ここ大井家ノ下モ遺跡は、古来からの言い伝えによると『大井千軒』の集落跡とか、中世にこの地を開発したといわれる有力な在地領主の屋敷跡とかいわれて来た。

この遺跡の西1kmには、すでに調査された、大井聖坂遺跡。またその中間あたりの山中には、大井1号墳・2号墳。そして調査地より100mほどの所に経塚・大井3号墳。北側に橋詰遺跡。佐治川を渡った山際には古市上山根遺跡等。佐治村埋蔵文化財の宝庫といってもよい場所に位置した遺跡である。

調査地は東西に谷川を配しており、その2川の花崗岩質の砂質土によって形成された段丘状の土地である。全般的に砂質土層であったが、山側の畑は東側の谷から押し出したものか花崗岩質の岩石がごろごろとしており発掘調査には最悪の現場であった。

しかしこの地に、13世紀前後、中国からの輸入陶磁器を生活用品として使用していた裕福な生活集団（一般庶民には手の届かない品物であったと推察される）。また、遠く、山口、長崎あたりで生産されたと思われる石鍋をこの地にもたらし、生活用品として使用していた有力な生活集団が生活していた事が、本発掘調査によって明らかにされたのである。

A調査区（いちばん西端）で中世ごろと思われる足跡を検出したことも収穫であった。

最終的には、E調査区（いちばん南側—山側）で総柱で建てられていたと思われる掘立て柱の倉庫跡、7mあまりの横列跡を検出することが出来た。

倉庫は床を高くしていたと推定される。誰の為の倉庫か推論の域を出ないが部落はすれとすれば、部落の人全体のための倉庫であったかも知れない。また屋敷跡とすれば、有力者の屋敷の倉庫であったと考えられる。

瓦器の類も多数検出したが横列の意義と考えあわせ、古墳期以降出現したといわれる巨石崇拜からくる祭祀場跡と考えられないこともない。

いずれも推論の域を出ない発掘調査に終わったが、調査日数も補助事業のため制限を受け、満足いくものでなかったと思う。

なにはともあれこの佐治郷にも、中世（鎌倉・室町の時代）に外部と盛んに交易をした有力な生活集団が生活していた事は確かである。

現在、佐治村の特産物といえば、二十世紀梨とか和紙があげられるが以前は「漆」も特産物の一つであったと聞いている。

実は、本調査において陶磁器の破片から漆の貯蔵か或いは漆を使う時の入れ物か、黒茶っぽい色で、水洗すればすぐ落ちてしまいそうな薄い膜のついた遺物が検出されている。

本村でも漆を採集するための諸用具が資料館で見られるが、あの用具は近年のものであって、すでに本村では、13世紀ごろに漆にかかわる何等かの仕事が行なわれていた事が立証される遺物であると考ええる。

どうしてこの石原の中に土器片が多数散在しているのか。

石原のあたりに住宅があったが、土石流でうまってしまった。

東の谷に住居があった。ある日突然、土石流のため破壊され押し流された。

中世ごろ、使用不可能になった生活用具の捨て場であった。

等々、問題が山積する結末になったが、この発掘調査の目的はほぼ達成されたと考えている。

終りに、御多忙の中調査指導から玉稿まで戴いた、田中精夫先生・八峠 興先生、調査の実施・報告書の作成にあたり、指導・助言あるいは協力いただいた各位に対し、記して謝意を表わしたいと思う。

参考文献	大井聖坂遺跡発掘調査報告書	佐治村教育委員会
	大井3号墳発掘調査報告書	〃 〃
	徳丸宮ノ腰遺跡発掘調査報告書	八東町教育委員会
	佐治村誌	佐治村
	新編 八頭郡の地名	小谷 五郎 (八東町)
	日本地名大辞典一鳥取県一	角川書店
	展示案内	広島県立歴史博物館
	中世の港町—海の道から中世をみる I—	〃 〃
	草戸千軒町遺跡出土の滑石製石鍋	〃 〃
	瀬戸内の中国陶磁	〃 〃
	新版 標準土色帖	富士平工業 K・K
	埋蔵文化財発掘技術研修会 資料	県埋蔵文化財センター
	第13回 研究会報告資料 (貿易陶磁器)	中世土器研究会
	土器研究の新視角—鎌倉時代を中心に—	〃 〃

遺物觀察表

(挿表6)

天 下 無 難 事

唯 恐 有 人 為

建物の名称 採取年月 所在地	部名 ① 種類 ② 高さ	断面上の特徴	平法上の特徴	構成	寸法	① 色調(外側) ② 断面(内部) ③ 化粧(内面)	備考	
14 24	上欄 (瓦葺)	①28.0 ②不明	内側する部材から、屈曲し外側する口縁部に続く。口縁部は無い。	外側ナガ、内面ココナガ。	やや軟質	縦線	① 黒色 ② 灰白色 ③ 灰白色	外側面付着
2 14 24	土欄(土葺)	①28.0 ②不明	やや内側する部材から、屈曲し外側する口縁部に続く。口縁部は内側する面を持つ。	内外面ナガ。外面側方向に、くしりり条状。内面側方向に、くしりり条状。	やや軟質	縦線	① に近い褐色 ② に近い褐色 ③ に近い褐色	外側面が厚く付着。断面の色調がランドイッチ状。
3 14 24	裏 (土葺)	①38.0 ②不明	口縁部は緩やかに外側面に外側する。口縁部は無い。口縁部外面に2本の平行縦線を持つ。	内外面ナガ。断面外面工具による押さえ。	軟質	横線	① 黒褐色 ② 暗褐色 ③ 暗褐色	外側面付着
4 14 24	土欄(裏) (土葺)	①24.0 ②不明	内側する部材から、緩やかに外側面に外側する口縁部に続く。口縁部は内側する面を持つ。	外面は口縁部ココナガ。断面以下ナガ。内面ココナガ。断面以下くしりり条状。	やや軟質	縦線	① に近い褐色 ② に近い褐色 ③ に近い褐色	内面側が厚く付着。外側面は灰、黒付着。
5 14 24	裏 (土葺)	①32.0 ②不明	内側する部材から、緩やかに外側面に外側する口縁部に続く。口縁部は内側する面を持つ。	外面は口縁部ココナガ。断面以下ナガ。内面ココナガ。断面より下くしりり条状。	軟質	縦線	① 黒褐色 ② 暗褐色 ③ 暗褐色	外側面付着
6 15 24	裏 (土葺)	①28.0 ②不明	やや内側する部材から、屈曲し外側する口縁部に続く。口縁部は無い。	内外面ナガ。外面側方向に、くしりり条状。内面側方向に、くしりり条状。	良好	1~2の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 暗褐色 ③ 暗褐色	内側面付着
7 15 24	土欄 (瓦葺)	①28.8 ②不明	外反する部材から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外側する面を持ち、外側に彫り出す。	外面は口縁部ココナガ。断面以下ナガ。内面ココナガ。断面外面に彫り出す。	良好	断面1mm以下の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 暗褐色 ③ 暗褐色	外側面付着
8 15 24	土欄 (瓦葺)	①28.0 ②不明	外反する部材から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外側する面を持ち、外側に彫り出す。	外面は口縁部ココナガ。断面以下ナガ。内面ココナガ。口縁部内面に鉄上を垂り付けナゲ出す。	良好	断面	① 黒褐色 ② 暗褐色 ③ 暗褐色	外側面付着
9 15 24	土欄 (瓦葺)	①28.0 ②不明	外反する部材から、屈曲して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持つ。	外面は口縁部ココナガ。断面以下ナガ。内面ココナガ。断面外面に彫り出す。	やや軟質	1mmくらいの砂粒を含む	① 暗褐色 ② 暗褐色 ③ (外)暗褐色、(内)暗褐色	外側面付着。断面の色調がランドイッチ状。
10 15 24	土欄 (瓦葺)	①30.0 ②不明	外反する部材から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は内側する面を持つ。	外面は口縁部ココナガ。断面以下ナガ。内面は口縁部ココナガ。断面以下斜め方向のハケ目。断面外面に彫り出す。	良好	断面1mm以下の砂粒を含む	① 暗褐色 ② 暗褐色 ③ 暗褐色	外側面付着
11 15 24	土欄 (瓦葺)	①32.0 ②不明	外反する部材から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外側する面を持ち、外側に彫り出す。	外面は口縁部ココナガ。断面以下ナガ。内面ココナガ。断面外面に彫り出す。	良好	断面	① 暗褐色 ② 暗褐色 ③ 暗褐色	外側面が厚く付着
12 15 24	土欄 (瓦葺)	①28.0 ②不明	外反する部材から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、断面内面に1本の縦線を持つ。	外面は口縁部ココナガ。断面以下ナガ。内面ココナガ。断面外面に彫り出す。口縁部は内側する面を持ち、断面内面に1本の強い縦線を持つ。	やや良	1mmくらいの砂粒を含む	① 暗褐色 ② 暗褐色 ③ 暗褐色	外側面が厚く付着
13 16 25	土欄 (瓦葺)	①35.8 ②不明	外反する部材から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外側する面を持ち、断面内面に1本の強い縦線を持つ。	外面は口縁部ココナガ。断面以下ナガ。内面ココナガ。断面内面に強いココナガ。口縁部は内側する面を持つ。断面内面に1本の強い縦線を持つ。	良好	断面1mm以下の砂粒を含む	① 暗褐色 ② 暗褐色 ③ 暗褐色	外側面付着
14 16 25	土欄 (瓦葺)	①30.0 ②不明	外反する部材から、わずかに内側して外側へゆるく口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、外側に彫り出す。断面内面に2本の強い縦線を持つ。	外面は口縁部ココナガ。断面以下ナガ。内面ココナガ。断面外面に彫り出す。	良好	断面	① 暗褐色 ② 暗褐色 ③ 暗褐色	外側面付着
15 16 25	土欄 (瓦葺)	①26.0 ②不明	外反する部材から、わずかに内側して外側へゆるく口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、外側に彫り出す。断面内面に2本の強い縦線を持つ。	外面は口縁部ココナガ。断面以下ナガ。内面ココナガ。断面外面に彫り出す。	良	1mmくらいの砂粒を含む	① 暗褐色(口縁部) ② 暗褐色(口縁部) ③ 暗褐色	外側面付着
16 17 25	土欄 (瓦葺)	①26.0 ②不明	水平に外反する部材から、屈曲して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、わずかに内側する。断面内面に2本の強い縦線を持つ。	外面は口縁部ココナガ。断面以下ナガ。内面ココナガ。断面外面に彫り出す。口縁部は内側する面を持ち、断面内面に2本の強い縦線を持つ。	良好	断面	① 暗褐色(口縁部) ② 暗褐色 ③ 暗褐色	外側面付着
17 17 26	土欄 (瓦葺)	①24.0 ②不明	外反する部材から、屈曲して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外側する面を持ち、わずかに内側する。断面内面に2本の強い縦線を持つ。	外面は、口縁部ハケ目によるココナガ。断面以下ナガ。断面ハケ目によるココナガ。外反部以下に彫り出す。断面内面に2本の強い縦線を持つ。	良好	断面	① 暗褐色 ② 暗褐色 ③ 暗褐色	外側面付着

通称番号 洋名番号 及規号	器種	径長 (cm) ①口径 ②全長	形態上の特徴	手法上の特徴	産地	胎土	① 色澤(外面) ② 色澤(内面) ③ 色澤(断面)	備考
18 17 26	土鍋 (瓦質)	①24.0 ②不詳	外反する器部から、内高味地に外側にひらく口縁部に鋭く、口縁部は水平な面を持ち、内側に肥厚する。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。内面ヨコナデ、口縁部は工具による強いヨコナデ。	良	緻密	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	
19 17 26	土鍋 (瓦質)	①32.0 ②不詳	外反する器部から、内高して立ち上る口縁部に鋭く、口縁部は水平な面を持ち、外側に肥厚する。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。内面ヨコナデ、口縁部は工具による強いヨコナデ。	良好	緻密 1mm以下の砂粒を含む	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	外面一面に灰付木
20 17 26	土鍋 (瓦質)	①29.2 ②不詳	外反する器部から、内高して立ち上る口縁部に鋭く、口縁部は外傾する面を持ち、内側に肥厚する。器部内面に1本の縦線を持つ。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。年外面に指製圧痕が多い。内面ヨコナデ、口縁部は工具による強いヨコナデ。	良好	緻密 2~3mmの砂粒を含む	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	外面灰付木
21 18 26	土鍋 (土質)	①34.0 ②不詳	外反する器部から、内高して外側にひらく口縁部に鋭く、口縁部は水平な面を持ち、わずかに肥厚する。器部内面に1本の縦線を持つ。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。内面横方向のハケ目。体部外面に指製圧痕がめぐる。	良好	緻密	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	
22 18 26	土鍋 (瓦質)	①27.0 ②不詳	外反する器部から、内高して立ち上る口縁部に鋭く、口縁部は外傾する面を持ち、外側に肥厚する。器部内面に2本の縦線を持つ。器部外面に1本の縦線を持つ。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。内面ヨコナデ、器部内面に強いヨコナデ。体部外面に指製圧痕。	良好	緻密 2~3mmの砂粒を含む	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	外面はがれている、外面灰付木
23 18 26	土鍋 (瓦質)	①26.6 ②不詳	水平に外反する器部から、内高して立ち上る口縁部に鋭く、口縁部は外傾する面を持ち、肥厚する。器部内面に1本の縦線を持つ。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。内面ヨコナデ、口縁部は工具による強いヨコナデ。	良好	緻密 1mm以下の砂粒を含む	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	外面灰付木
24 18 27	土鍋 (瓦質)	①26.8 ②不詳	水平に外反する器部から、内高して立ち上る口縁部に鋭く、口縁部は外傾する面を持ち、わずかに肥厚する。器部内面に2本の縦線を持つ。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。内面ヨコナデ、口縁部は工具による強いヨコナデ。	良好	緻密 1mm以下の砂粒を含む	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	外面灰付木
25 19 27	土鍋 (瓦質)	①26.0 ②不詳	外反する器部から、内高して立ち上る口縁部に鋭く、口縁部は外傾する面を持ち、外側に肥厚する。器部内面に1本の縦線を持つ。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。内面ヨコナデ、器部内面に強いヨコナデ、口縁部内面に粘土を貼り付けたナデ。	良好	緻密	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	外面灰付木
26 19 27	土鍋 (瓦質)	①27.0 ②不詳	外反する器部から、内高して立ち上る口縁部に鋭く、口縁部は外傾する面を持ち、肥厚する。器部内面に1本の縦線を持つ。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。内面ヨコナデ、外面器部に指製圧痕が多く認められる。	良好	緻密 1mm以下の砂粒を含む	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	外面灰付木。外面はがれている。
27 19 27	土鍋 (瓦質)	①26.0 ②不詳	外反する器部から、内高して立ち上る口縁部に鋭く、口縁部は水平な面を持ち、わずかに肥厚する。器部内面に1本の縦線を持つ。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。内面ヨコナデ、口縁部は工具による強いヨコナデ。	良好	緻密 砂粒を含む	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	外面灰付木
28 19 27	土鍋 (瓦質)	①37.0 ②不詳	外反する器部から、内高して立ち上る口縁部に鋭く、口縁部は外傾する面を持ち、肥厚する。面の中央部には縦線、器部内面に2本の強い縦線を持つ。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。器部に指製圧痕が多い。内面はヨコナデ、口縁部は外側につまんでヨコナデの後、口縁部内面をヨコナデ。	良好	緻密	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	外面灰付木
29 20 27	土鍋 (瓦質)	①30.0 ②不詳	外反する器部から、内高して立ち上る口縁部に鋭く、口縁部は外傾する面を持ち、肥厚する。器部内面に1本の縦線を持つ。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。器部以下に指製圧痕が多い。口縁部は工具による強いヨコナデによる。外側に折り直げられる。	良好	緻密	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	外面灰付木
30 20 27	土鍋 (瓦質)	②不詳	外反する器部から、内高して立ち上る口縁部に鋭く、口縁部は水平な面を持ち、外側に肥厚する。器部内面に1本の強い縦線を持つ。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。内面はハケ目によるヨコナデ。体部外面に指製圧痕がめぐる。	良好	砂粒を多く含む	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	外面灰付木
31 20 27	土鍋 (瓦質)	①27.0 ②不詳	外反する器部から、内高して立ち上る口縁部に鋭く、口縁部は外傾する面を持ち、肥厚する。器部内面に1本の強い縦線を持つ。	外面は口縁部ヨコナデ、頸部以下ナデ。内面ヨコナデ。体部外面に指製圧痕が多い。	良好	緻密	① 淡褐色 ② 桃灰色 ③ 褐色	

建物番号 等価番号 況表番号	部種	法番(cm) ①口径 ②不明	形題上の特徴	手法上の特徴	構成	附土	①色目(外面) ②色目(内面) ③色目(断面)	備考
32 20 28	土牆 (瓦葺)	①22.6 ②不明	外反する頂部から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。内面ヨコナガ。体部外面に折戻瓦葺がめぐる。	良好	断面1cm以下の砂粒を含む	① 淡褐色 ② 褐色 ③ 褐色	外側壁が厚く付着
33 - 28	土牆 (瓦葺)	①32.0 ②不明	外反する頂部から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外傾する面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。内面はハケに上るヨコナガ。断面内面に強いヨコナガ。体部外面に折戻瓦葺。	良好	断面1cm以下の砂粒を含む	① 淡褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
34 20 28	土牆 (瓦葺)	①31.2 ②不明	外反する頂部から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、内側に肥厚する。断面内面に2本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。外面はハケによるヨコナガ。口縁部は丁長による強いヨコナガ。外面に折戻瓦葺がめぐる。	良好	断面1cm以下の砂粒を多く含む	① 淡褐色 ② 褐色 ③ 灰黄色	内側壁付着
35 21 28	土牆 (瓦葺)	①28.8 ②不明	水平に外反する頂部から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、大きく肥厚する。断面内面に1本の強い縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。内面ヨコナガ。口縁部は強いヨコナガ。断面内面に折戻瓦葺。	良好	断面1cm以下の砂粒を多く含む	① 灰色 ② 灰色 ③ 暗灰色	外側壁付着
36 21 28	土牆 (瓦葺)	①30.0 ②不明	外反する頂部から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。内面は横長のハケ目。口縁部は丁長による強いヨコナガ。断面外側に折戻瓦葺がめぐる。	良好	断面	① 黒褐色 ② 淡黄色 ③ 灰黄色	
37 21 28	土牆 (瓦葺)	①28.8 ②不明	外反する頂部から、断面して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外傾する面を持ち、断面内面に2本の強い縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。内面ヨコナガ。口縁部は外側につまんでヨコナガの後、口縁部内面にヨコナガ。	良好	断面1cm以下の砂粒を含む	① 褐色 ② 灰白色 ③ 灰白色	外側壁付着
38 21 28	土牆 (瓦葺)	①22.2 ②不明	水平に外反する頂部から、断面して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外傾する面を持ち、断面内面に2本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。内面ヨコナガ。体部外面に折戻瓦葺がめぐる。	良(やや 欠落)	断面1cm以下の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 灰色 ③ 灰白色	内側壁付着
39 21 28	土牆 (瓦葺)	①27.0 ②不明	外反する頂部から、断面して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、肥厚する。断面内面に2本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。内面ヨコナガ。	良好	断面	① 黒褐色 ② 灰色 ③ 外側淡褐色、内側黒色	
40 22 29	土牆 (瓦葺)	①28.4 ②不明	外反する頂部から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、わずかに肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。内面ヨコナガ。断面外側に折戻瓦葺がめぐる。	良好	断面1cm以下の砂粒を多く含む	① 灰色 ② 褐色 ③ 灰色	外側壁付着
41 22 29	土牆 (瓦葺)	①20.6 ②不明	外反する頂部から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、肥厚する。断面内面に1本の強い縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。内面ヨコナガ。口縁部は外側につまんでヨコナガの後、口縁部内面にヨコナガ。	良好	断面1cm以下の砂粒を含む	① 褐色 ② 灰色 ③ 灰白色	断面内側壁付着
42 22 29	土牆 (瓦葺)	①29.0 ②不明	外反する頂部から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外傾する面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。内面ヨコナガ。体部外面に折戻瓦葺。	良好	断面2cm以下の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 褐色 ③ (外)にぶい、褐色(内)灰褐色	断面がサンドイッチ状。
43 22 29	土牆 (瓦葺)	①31.6 ②不明	水平に外反する頂部から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。内面ヨコナガ。	良(やや 欠落)	断面1cm以下の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 褐色 ③ 灰黄色	外側壁付着。
44 22 29	土牆 (瓦葺)	①30.0 ②不明	水平に外反する頂部から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。内面ヨコナガ。体部外面に折戻瓦葺。	良好	断面	① 黒褐色 ② 褐色 ③ 灰黄色	外側壁部剥離付着。
45 - 29	土牆 (瓦葺)	①27.0 ②不明	外反する頂部から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外傾する面を持ち、肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナガ、断面以下ナガ。内面ヨコナガ。外反部に折戻瓦葺が多く認められる。	良好	断面1cm以下の砂粒を含む	① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	

建物番号 調査番号 図表番号	用途	高さ(m) ①口径 ②深さ	形質上の特徴	平面上の特徴	地況	土質	① 土質(外面) ② 土質(内面) ③ 土質(断面)	備考
46 23 29	土庫 (瓦葺)	①28.0 ②不明	外反する箇所から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁端部は外傾する面を持ち、肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は、口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。内面は横方向のハゲ目。口縁部は外面につまんでヨコナダの外縁部内面をヨコナダ。全体外面に指痕圧痕。	良好	緻密	① 黒褐色 ② 灰白色 ③ 淡黄褐色	外面残存
47 23 29	土庫 (瓦葺)	①30.0 ②不明	外反する箇所から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁端部は外傾する面を持ち、内側に肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。内面ヨコナダ。口縁部は強いヨコナダ。	良好	緻密	① 褐色 ② 褐色 ③ 灰黄色	
48 23 30	土庫 (瓦葺)	①30.0 ②不明	外反する箇所から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁端部は外傾する面を持ち、肥厚する。断面内面に2本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。内面ヨコナダ。筋部内面に強いヨコナダ。筋部外面に指痕圧痕。	良好	緻密	① 褐色 ② ぶい黄褐色 ③ ぶい黄褐色	
49 23 30	土庫 (瓦葺)	①28.0 ②不明	外反する箇所から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁端部は外傾する面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。内面ヨコナダ。口縁部外面に強いヨコナダ。筋部外面に指痕圧痕。	良好	緻密	① 黒褐色 ② 黒褐色 ③ 灰色	外面残存
50 23 30	土庫 (瓦葺)	①28.0 ②不明	外反する箇所から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁端部は外傾する面を持ち、肥厚する。断面内面に1本の鈍い縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。内面はハゲによるヨコナダ。口縁部は工具による強いヨコナダ。	良好	緻密	① 黒褐色 ② 灰褐色 ③ 灰白色	
51 21 30	土庫 (瓦葺)	①23.0 ②不明	外反する箇所から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁端部は水平な面を持ち、肥厚する。断面内面に2本の強い縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。内面ハゲによるヨコナダ。口縁部は工具による強いヨコナダ。	良好	緻密	① 灰褐色 ② 灰褐色 ③ 灰褐色	表面残存
52 24 30	土庫 (瓦葺)	①30.0 ②不明	外反する箇所から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁端部は外傾する面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に2本の縦筋を持つ。	内面ヨコナダ。外面は口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。外面筋部以下に指痕圧痕。	良好	緻密 1m以下の砂粒を含む	① 淡褐色 ② 黒褐色、灰白色のまだら ③ 灰白色	外面一部に残存
53 21 30	土庫 (瓦葺)	①21.0 ②不明	外反する箇所から、内側して外面にひらく口縁部に続く、口縁端部は内傾する面を持ち、わずかに肥厚する。断面内面に2本の鈍い縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。内面はハゲによるヨコナダ。	良好	緻密	① 黒褐色 ② 黄褐色 ③ 淡黄色	外面残存
54 24 30	土庫 (瓦葺)	①21.2 ②不明	外反する箇所から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁端部は水平な面を持ち、肥厚する。断面内面に1本の強い縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。内面はハゲによるヨコナダ。口縁部は工具によるヨコナダ。	良(やや軟質)	やや粗 2m以下の砂粒を多く含む	① 黒褐色 ② 黒褐色 ③ 灰黄色	外面残存跡が少量
55 24 30	土庫 (瓦葺)	①28.8 ②不明	外反する箇所から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁端部は水平な面を持ち、肥厚する。断面内面に2本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。内面ヨコナダ。全体外面に指痕圧痕。	良好	緻密 1m以下の砂粒を含む	① 黒褐色(筋部) ② 褐色 ③ 黄褐色 ④ 淡黄色	外面残存跡が少量
56 25 31	土庫 (瓦葺)	①24.4 ②不明	外反する箇所から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁端部は外傾する面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。内面はハゲによるヨコナダ。全体外面に指痕圧痕。	良(やや軟質)	緻密 1m以下の砂粒を含む	① 黒褐色(口縁部) ② 暗灰色 ③ 灰色 ④ 灰白色	外面残存
57 25 31	土庫 (瓦葺)	①27.0 ②不明	外反する箇所から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁端部は水平な面を持ち、内側に肥厚する。断面内面に2本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。内面はハゲによるヨコナダ。筋部外面に指痕圧痕がめぐる。	良好	緻密	① 黒褐色 ② 灰褐色 ③ 灰褐色	
58 25 31	土庫 (瓦葺)	①32.0 ②不明	外反する箇所から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁端部は外傾する面を持ち、肥厚する。断面内面に1本の強い縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。内面ヨコナダ。筋部内面に強いヨコナダ。筋部以下外面に指痕圧痕が多い。	良	緻密	① 黒褐色 ② 灰色 ③ 灰白色	
59 25 31	土庫 (瓦葺)	①21.0 ②不明	外反する箇所から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁端部は外傾する面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、筋部以下ナダ。内面ヨコナダ。口縁部外面に強いヨコナダ。筋部外面に指痕圧痕。	良好	緻密	① 灰褐色 ② 灰褐色 ③ 灰色	

器物番号 和名番号 和名番号	器種	口径(cm) ①不明 ②不明	形態上の特徴	手法上の特徴	焼成	胎土	① 色相(外面) ② 色相(内面) ③ 色相(断面)	備考
80 25 31	土甕 (瓦質)	①28.0 ②不明	外反する頸部から、内筒して立ち上る口縁部に続く、口縁部は水平な面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に1本の鋭い稜線を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸部以下ナダ。内面ヨコナダ。頸部外側に指張圧痕。口縁部は外側につまんでヨコナダの後口縁部内面をヨコナダ。	良好	緻密1mm以下の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 暗灰色 ③ 灰白色	外面縁が厚く付着
61 26 31	土甕 (土質)	①28.0 ②不明	外反する頸部から、内筒して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外側に傾く面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に1本の鋭い稜線を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸部以下ナダ。内面ヨコナダ。外面外側に指張圧痕が多い。	良好	緻密砂粒を含む	① 黒褐色 ② 灰色 ③ 灰白色	外面縁付着
62 25 31	土甕 (瓦質)	①28.0 ②不明	外反する頸部から、内筒して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外側に傾く面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に2本の稜線を持つ。	内面ヨコナダ。外面は口縁部ヨコナダ。外面以下ナダ。外反頸部以下に指張圧痕。	良好	密2mm以下の砂粒を含む	① 褐色 ② 暗灰色 ③ 灰白色	外面縁付着
63 26 31	土甕 (瓦質)	①28.0 ②不明	外反する頸部から、内筒して立ち上る口縁部に続く。口縁部は内側に傾く面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に1本の稜線を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸部以下ナダ。内面はヘケによるヨコナダ。口縁部は工具によるヨコナダ。			① 褐色 ② 黒褐色 ③ 灰白色	
64 26 32	土甕 (瓦質)	①29.6 ②不明	外反する頸部から、内筒して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に1本の稜線を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸部以下ナダ。内面ヨコナダ。頸部外側に指張圧痕。	良(やや改良)	緻密1mm以下の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 灰白色 ③ 灰白色	外面縁付着
65 26 32	土甕 (瓦質)	①29.0 ②不明	外反する頸部から、内筒して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外側に傾く面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に1本の稜線を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸部以下ナダ。内面ヨコナダ。頸部外側に指張圧痕。	取壊	稀疎	① 灰白色 ② 黒褐色 ③ 灰白色	外面縁付着
66 26 32	土甕 (瓦質)	①29.0 ②不明	外反する頸部から、内筒して外側にひらく口縁部に続く。口縁部は内側に傾く面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に1本の鋭い稜線を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸部以下ナダ。内面ヨコナダ。頸部外側に指張圧痕。	良好	緻密1~2mmの砂粒を多く含む	① 黒灰色 ② 褐色 ③ 黒灰色	外面縁付着
67 27 32	土甕 (瓦質)	①29.0 ②不明	外反する頸部から、内筒して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に2本の稜線を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸部以下ナダ。内面ヨコナダ。頸部外側に指張圧痕。	良好	緻密	① 黄褐色 ② 灰白色 ③ 灰白色	口縁部が腫れ上がっている。灰はかかっていないようだ。
68 27 32	土甕 (瓦質)	①26.0 ②不明	外反する頸部から、内筒して外側にひらく口縁部に続く。口縁部は外側に傾く面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に2本の稜線を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸部以下ナダ。内面ヨコナダ。頸部外側に指張圧痕。	やや改良	緻密	① 黒褐色 ② 褐色 ③ 灰白色	外面縁付着
69 27 32	土甕 (瓦質)	①29.8 ②不明	外反する頸部から、内筒して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外側に傾く面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に2本の稜線を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸部以下ナダ。内面ヨコナダ。頸部外側に指張圧痕。頸部内面に鋭いヨコナダ。	良(やや改良)	緻密1mm以下の砂粒を含む	① 灰黄色 ② 灰色 ③ 灰白色	外面縁付着
70 27 32	土甕 (瓦質)	①27.0 ②不明	外反する頸部から、内筒して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に1本の鋭い稜線を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸部以下ナダ。内面ヨコナダ。頸部外側に指張圧痕。口縁部はヘケ削りによる。	取壊	稀疎	① 黒褐色 ② 灰褐色 ③ 灰白色	
71 27 32	土甕 (瓦質)	①24.0 ②不明	水平に外反する頸部から、内筒して立ち上る口縁部に続く。口縁部は外側に傾く面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に1本の鋭い稜線を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸部以下ナダ。内面ヨコナダ。外反頸部以下に指張圧痕。口縁部は工具によるヨコナダ。	取壊	稀疎	① 灰黄褐色 ② 灰白色 ③ 灰白色	
72 27 32	土甕 (瓦質)	①22.8 ②不明	水平に外反する頸部から、内筒して傾きに立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に1本の鋭い稜線を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸部以下ナダ。内面ヨコナダ。外反頸部以下に指張圧痕。口縁部は工具によるヨコナダ。	良好	緻密1mm以下の砂粒を含む	① 灰黄褐色 ② 灰色 ③ 灰白色	外面縁付着
73 28 32	土甕 (瓦質)	①29.4 ②不明	外反する頸部から、内筒して立ち上る口縁部に続く。口縁部は水平な面を持ち、外側に肥厚する。頸部内面に1本の稜線を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸部以下ナダ。内面はヘケによるヨコナダ。口縁部はヨコナダの後、口縁部内面をヨコナダ。	良好	緻密1mm以下の砂粒を含む	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰白色	外面縁付着

建築物等 調査番号	部材	寸法 (mm) ① 寸法 ② 容積	形状上の特徴	手法上の特徴	状況	施工	① 色澤 (外面) ② 色澤 (内面) ③ 色澤 (断面)	備考
74 28 32	七鉄 (瓦葺)	①26.0 ②不明	外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く、口縁部には外傾する面を持ち、肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、側部以下ナダ。内面ヨコナダ。体部外面に垂直凹凸。口縁部にはヨコナダ。断面内面はヨコナダ。	良好	縦筋 1mm以下の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 灰色 ③ 灰白色	外面採付書
75 28 32	土牆 (瓦葺)	①28.0 ②不明	外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部には外傾する面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、側部以下ナダ。内面ヨコナダ。口縁部外面に強いヨコナダ。断面内面に強いヨコナダ。	型崩れ		① 灰色 ② 灰白色 ③ 灰白色	
76 28 32	土牆 (瓦葺)	①27.6 ②不明	水平に外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部には水平な面を持ち、肥厚する。断面内面に2本の縦筋を持つ。	外反け口縁部ヨコナダ。側部以下ナダ。内面はハケによるヨコナダ。外側断面以下に凸凹凹凸。	良好	縦筋 1mm以下の砂粒を六つ	① 黒褐色 ② 黒褐色 ③ 明褐色	外面採付書
77 28 32	土牆 (瓦葺)	①30.0 ②不明	外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部には水平な面を持ち、肥厚する。断面内面に2本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、側部以下ナダ。内面はハケによるヨコナダ。	良好	縦筋 1mm以下の砂粒を六つ	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰黄色	外面採付書
78 28 32	土牆 (瓦葺)	①33.0 ②不明	外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部には外傾する面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に2本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、側部以下ナダ。内面ヨコナダ。断面外側に折戻り凹凸。	良好	筋 1~2mmの砂粒を多く含む	① 灰色 ② 灰白色 ③ 黄灰色	外面採付書
79 29 32	土牆 (瓦葺)	①26.0 ②不明	外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部には水平な面を持ち、肥厚する。断面内面に1本の強い縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、側部以下ナダ。内面ヨコナダ。断面外面に垂直凹凸が多い。	良	縦筋	① 黒褐色 ② 灰色 ③ 灰白色	外面採付書
80 29 32	土牆 (瓦葺)	①16.2 ②不明	外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部には水平な面を持ち、肥厚する。断面内面に2本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、側部以下ナダ。内面ヨコナダ。体部外面に垂直凹凸が多い。	良(やや軟弱)	筋 1mm以下の砂粒を多く含む	① 黒褐色 ② 灰白色 ③ 灰黄色	外面採付書
81 29 32	土牆 (瓦葺)	①28.0 ②不明	外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部には水平な面を持ち、肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、側部以下ナダ。内面ヨコナダ。外面断面以下に凸凹凹凸。口縁部には上向きによる強いヨコナダ。	良好	縦筋	① 灰黄色 ② 灰褐色 ③ 灰黄色	外面採付書
82 29 32	土牆 (瓦葺)	①26.0 ②不明	外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部には外傾する面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に2本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、側部以下ナダ。内面ヨコナダ。口縁部外面に強いヨコナダ。	良	筋 1~2mmの砂粒を含む	① 褐色 ② 黄褐色 ③ 黄褐色	断面がバンドイッダ。
83 29 32	土牆 (瓦葺)	①18.4 ②不明	外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部には外傾する面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、側部以下ナダ。内面ヨコナダ。断面外面に垂直凹凸が多い。口縁部には下向きによる強いヨコナダ。	良好	筋 1~2mmの砂粒を含む	① 褐色 ② 灰白色(口縁部) ③ 灰白色	外面採付書
84 29 32	土壁 (灰塗)	①24.0 ②不明	外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部には外傾する面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、側部以下ナダ。内面ヨコナダ。断面内面以下に折戻り凹凸。断面内面にハケによる強いヨコナダ。	良好	縦筋 1mm以下の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 灰色 ③ 灰色	外面採付書
85 30 32	土壁 (瓦葺)	①25.6 ②不明	外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部には外傾する面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に2本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、側部以下ナダ。内面ヨコナダ。断面外側に折戻り凹凸。断面内面に折戻り凹凸。	良好	縦筋 1mm以下の砂粒を含む	① 褐色 ② 灰白色(口縁部) ③ 灰白色	外面採付書
86 30 32	七鉄 (瓦葺)	①39.0 ②不明	水平に外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部には外傾する面を持ち、肥厚する。断面内面に1本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、側部以下ナダ。内面ヨコナダ。口縁部には工具による強いヨコナダ。	良好	筋 1mm以下の砂粒を多く含む	① 褐色 ② 褐色 ③ 灰色	外面採付書
87 30 32	土壁 (瓦葺)	①30.2 ②不明	外反する屋根から、内側して立ち上る口縁部に続く。口縁部には外傾する面を持ち、外側に肥厚する。断面内面に1本の強い縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、側部以下ナダ。内面ヨコナダ。断面外側に折戻り凹凸。	良好	縦筋 1mm以下の砂粒を含む	① 褐色 ② 灰白色(口縁部) ③ 灰白色	外面はがれている。外面採付書。

通称番号 群別番号	群種	虫体 (cm) ①口径 ②不明	形態上の特徴	手法上の特徴	施設	始土	① 色質(外面) ② 色質(内面) ③ 特徴(断面)	備考
88 30 32	土蟻 (瓦質)	①29.0 ②不明	外穴する箇所から、内湧して 外面にひろく口縁部に覆く、 口縁部は水平な面を持ち、 わずかに肥厚する。断面内面に 1本の縦筋を持つ。	外穴は口縁部ヨコナダ、頸 部以下ナダ、内面はハクに よるヨコナダ、外面腹前に 粗縦筋状。	良好	断面 1mm以 下の砂粒を 含む	① 灰色 ② 灰白色(口縁 部灰色) ③ 灰白色	外面腹付葉。
89 30 32	土蟻 (灰黒質)	①24.4 ②不明	外穴する箇所から、内湧して 立ち上る口縁部に覆く、口縁 部は外傾する面を持ち、外 面に肥厚する。断面内面に1 本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸 部以下ナダ、内面ヨコナダ、 外面腹前に粗縦筋状。	良好	断面 1mm以 下の砂粒を 含む	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰白色	外面腹付葉。
90 30 32	土蟻 (瓦質)	①26.0 ②不明	外穴する箇所から、内湧して 立ち上る口縁部に覆く、口縁 部は外傾する面を持ち、外 面に肥厚する。断面内面に1 本の縦筋を持つ。	外面は口縁部ヨコナダ、頸 部以下ナダ、内面ヨコナダ、 外面腹部下に粗縦筋状。	良好	1~2mmの 砂粒を含む	① 灰白色(口縁 部黒褐色) ② 黒褐色 ③ 灰白色	
91 30 32	土蟻 (瓦質)	①20.6 ②不明	外穴する箇所から、断面して 立ち上る口縁部に覆く、口縁 部は水平な面を持ち、外側 に肥厚する。断面内面に2本 の縦筋を持つ。	外穴は口縁部ヨコナダ、頸 部以下ナダ、内面ヨコナダ、 外面腹部下に粗縦筋状。	良(やや 軟質)	やや粗 1mm 以下の砂粒 を多く含む	① 黒色 ② 灰白色 ③ 黒色	
92 31 32	土蟻 (灰黒質)	①23.6 ②不明	外穴する箇所から、内湧して 立ち上る口縁部に覆く、口縁 部は水平な面を持ち、肥厚 する。断面内面に1本の縦筋 を持つ。	外穴は口縁部ヨコナダ、頸 部以下ナダ、内面ヨコナダ、 外面腹部以下粗縦筋状。	良好	断面 1mm以 下の砂粒を 含む	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰白色	外面腹付葉
93 31 32	羽付蟻 (瓦質)	②不明	口縁部に垂直に立ち上る。口 縁部は外側に大きく肥厚し 水平な面を持つ。外面に輝が めくる。蜂の縦筋は無い。	内外面ナダ。蜂を水平に貼 り付け、ナダ消す。口縁部 は低いヨコナダにより外 側に歪み曲げられる。	やや軟 質	断面	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰白色	
94 31 32	羽蟻 (灰質)	①23.0 ②不明	口縁部は内湧しながら立ち上 る。口縁部は内側に肥厚し わずかに外傾した面を持つ。 外面に輝がめくる。蜂の縦筋 は無い。	内外面ナダ。蜂を水平に貼 り付け、ナダ消す。体部外 面に粗縦筋状。	良好	断面	① 黒褐色 ② 黒褐色 ③ 灰白色	
95 31 32	羽蟻 (瓦質)	①24.0 ②不明	口縁部は内湧しながら立ち上 る。口縁部は内側に肥厚し わずかに外傾した面を持つ。 外面に輝がめくる。蜂の縦筋 は無い。	内外面ナダ。蜂を水平に貼 り付け、ナダ消す。体部外 面に粗縦筋状。	良好	断面	① 黒灰色 ② 黒褐色 ③ 灰白色	外面腹付葉。
96 31 32	羽蟻 (瓦質)	①32.0 ②不明	口縁部は内湧しながら立ち上 る。口縁部は内側に肥厚し わずかに外傾した面を持つ。 外面に輝がめくる。蜂の縦筋 は無い。	内外面ナダ。蜂を水平に貼 り付け、ナダ消す。体部外 面に粗縦筋状。	良好	断面	① 黒灰色 ② 黒褐色 ③ 灰白色	
97 31 32	羽蟻 (瓦質)	①26.8 ②不明	口縁部は内湧しながら立ち上 る。外側に輝がめくる。蜂の 縦筋は無い。	外面は口縁部ヨコナダ、頸 部以下ナダ、内面ハクに よるヨコナダ。蜂を水平より やや内側に貼り付け、上 部をナダ消す。体部外面に 粗縦筋状。	良(やや 軟質)	断面	① 灰褐色 ② 灰褐色 ③ 灰褐色	外面腹よりした 腹付葉前部がサ ンドイッチ状。
98 32 33	羽蟻 (灰質)	①32.0 ②不明	口縁部は内湧しながら立ち上 る。口縁部は内側に肥厚し わずかに外傾した面を持つ。 外面に輝がめくる。蜂の縦筋 は無い。	内外面ナダ。蜂を水平に貼 り付け、ナダ消す。体部外 面に粗縦筋状。	良好	断面	① 黒灰色 ② 黒褐色 ③ 灰白色	
99 32 33	羽蟻 (土質)	①10.2 ②不明	口縁部は垂直に立ち上る。口 縁部は外傾した面を持つ。 外面に輝がめくる。蜂の縦筋 は無い。	内外面ナダ。蜂を水平に貼 り付け、上部をナダ消す。	良(やや 軟質)	断面 1mm以 下の砂粒を 含む	① 黒褐色(口縁 部灰褐色) ② 灰褐色 ③ 灰褐色	
100 32 33	羽蟻 (灰質)	①20.0 ②不明	口縁部はわずかに内湧しなが ら立ち上る。口縁部は内側 に肥厚し水平な面を持つ。外 面に輝がめくる。蜂の縦筋は 無い。	内外面ハクによるヨコナ ダ。蜂を水平に貼り付け、 上部をナダ消す。	やや軟 質	断面	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰白色	
101 32 33	羽蟻 (灰質)	①26.0 ②不明	口縁部は垂直に立ち上る。口 縁部は外側に大きく肥厚し 水平な面を持つ。外面に輝が めくる。蜂の縦筋は無い。	外面は口縁部ヨコナダ、頸 部以下ナダ、内面ハクに よるヨコナダ。蜂を水平に貼 り付け、ナダ消す。	良好	断面 1mm以 下の砂粒を 含む	① 黒褐色 ② 灰白色 ③ 灰白色	外面腹より下腹 付葉。
102 32 33	羽蟻 (灰質)	①20.0 ②不明	口縁部は垂直に立ち上る。口 縁部は外側に大きく肥厚し 水平な面を持つ。外面に輝が めくる。蜂の縦筋は無い。	外面は口縁部ヨコナダ、頸 部以下ナダ、内面ハクに よるヨコナダ。蜂を水平より やや内側に貼り付け、ナ ダ消す。	良好	1mm以下の 砂粒を含む	① 黒褐色 ② 灰褐色 ③ 中心部灰白 黒外側灰褐色	外面腹付葉。

建物等 調査番号	階層	位置 (m) ①中心 ②高さ	形質上の特徴	平面上の特徴	状況	地上	色調(外側) ①色調(内側) ②色調(扉面)	備考
103 32 33	羽板 (瓦葺)	①23.0 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ハクによるヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、上部をナゲ出す。	良好	高さ 1 m 以下の砂粒を含む	① 灰白色(口縁部) ② 灰白色 ③ 灰黄色	外面飾り下扉付き。
104 32 33	羽板 (瓦葺)	①34.0 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し水いかなるを持つ。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ハクによるヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、上部をナゲ出す。	良好	高さ 1 ～ 2 m の砂粒を含む	① 灰白色 ② 灰黄色 ③ 灰白色	
105 32 33	羽板 (瓦葺)	①24.6 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ハクによるヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、上部をナゲ出す。	良好	高さ 1 m 以下の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 灰白色 ③ 灰白色	外面扉付き。
106 32 33	羽板 (瓦葺)	①35.0 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持ち、中央部は凹む。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、上部に飾り付け、上部をナゲ出す。	良好	1 ～ 2 m の砂粒を含む	① 灰白色 ② 灰白色 ③ 灰白色	
107 32 33	羽板 (瓦葺)	①22.0 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、上部をナゲ出す。	良(やや軟弱)	高さ 1 m 以下の砂粒を含む	① 灰白色 ② 灰白色 ③ 灰白色	外面飾り下扉付き。
108 32 33	羽板 (瓦葺)	①24.0 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。面の中央部は凹む。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ハクによるヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、上部をナゲ出す。	良好	高さ 1 m 以下の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 黒褐色 ③ 灰白色	
109 32 33	羽板 (瓦葺)	①20.0 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、ナゲ出す。	良好	高さ 1 m 以下の砂粒を含む	① 灰白色 ② 灰白色 ③ 灰白色	
110 34 33	羽板 (瓦葺)	①20.8 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ハクによるヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、ナゲ出す。口縁部内面に飾り彫刻がめぐる。	良好	高さ 1 m 以下の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 黒褐色 ③ 灰黄色	外面飾り下扉付き。
111 34 34	羽板 (瓦葺)	①21.8 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。面の中央部は凹む。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ハクによるヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、上部をナゲ出す。	要修繕	高さ 1 m 以下の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 黒褐色 ③ 灰黄色	
112 34 34	羽板 (瓦葺)	①24.4 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ハクによるヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、上部をナゲ出す。	やや軟弱	高さ 1 m 以下の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 黒褐色 ③ 灰黄色	
113 34 34	羽板 (瓦葺)	①22.0 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、ナゲ出す。扉部外面に指摺り痕が多い。	良好	高さ 1 m 以下の砂粒を含む	① 灰白色 ② 灰白色 ③ 灰白色	
114 34 34	羽板 (瓦葺)	①17.2 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、ナゲ出す。	良好	高さ 1 m 以下の砂粒を含む	① 灰白色 ② 灰白色 ③ 灰白色	外面飾り下扉に扉付き。
115 34 34	羽板 (瓦葺)	①23.4 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ハクによるヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、ナゲ出す。	良好	高さ 1 ～ 2 m の砂粒を多く含む	① 黒褐色 ② 灰白色 ③ 灰白色	外面扉付き。
116 35 34	羽板 (瓦葺)	①26.0 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ハクによるヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、ナゲ出す。	良好	高さ 2 ～ 3 m の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 灰白色 ③ 灰白色	外面扉付き。
117 35 34	羽板 (瓦葺)	①28.0 ②不明	口縁部は内蔵しながら立ち上る。口縁部は内側に彫刻し外装した面を持つ。外面に飾りがめぐる。扉の端部は面を持つ。	外面は口縁部ヨコナゲ、飾り下ナゲ。内面ヨコナゲ。扉を水平に貼り付け、上部をナゲ出す。	良好	高さ 2 ～ 3 m の砂粒を含む	① 黒褐色 ② 灰白色 ③ 灰黄色	外面飾り下扉付き。

遊楽符号 種別番号 取扱番号	記号	取組 (cm) ①口径 ②高さ	形態上の特徴	手法上の特徴	構成	粘土	①色顔(外面) ②色顔(内面) ③色顔(断面)	備考
118 35 34	羽輪 (瓦葺)	①20.0 ②ハケ	1.縁部は内側しながら立ち上る。口縁部よりわずかに下の部分に肥厚し、殆どは外側した面を持つ。外面に割がめぐる。腹の縁部は面を持つ。	外縁は口縁部ココナダ、筋より下ナダ。内縁はハケによるココナダ。腹を水平よりやや上向きに貼り付け、ナダ筋す。	彫削	埴土	① 灰黄色(口縁部赤褐色) ② 灰黄色 ③ 灰褐色	外面筋より下部に厚み。
119 34	茶碗 (瓦葺)	①26.0 ②小羽	口縁部は腹面に立ち上る。口縁部はわずかに肥厚し水平な面を持つ。外縁は割がめぐる。腹の縁部は面を持つ。	外面は口縁部ココナダ、筋よりココナダ。内面ハケによるココナダ。腹を水平に貼りつけ、ナダ筋す。	彫削	埴土 1mm以下の砂粒を含む	① 赤褐色 ② 灰白色 ③ 灰白色	外面筋より下部に厚み。
120 35 34	押鉢 (七郎賞)	①23.0 ②平形	片口鉢。口縁部は内側気味に斜め上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	内外面ナダ	今半取賞		① 赤褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
121 35 34	提鉢 (須恵器)	①36.0 ②平形	口縁部は内側気味に斜め上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	外面ハケによるココナダ。内面ナダ。	器い	赤砂土を含む	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰色	東洋窯遺品 片口鉢12C-13C
122 36 34	提鉢 (須恵器)	①24.0 ②10.7	口縁部は斜め上方へひろく。上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	内外面ナダ。口縁部に自然筋。	器い	やぐれ	① 灰色 ② 灰色(口縁部赤褐色) ③ 灰色	
123 36 34	提鉢 (須恵器)	①23.0 ②小羽	片口鉢。口縁部は内側気味に斜め上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	内外面ココナダ。内面は強いココナダ。	良好	埴土 1mm以下の砂粒を含む	① 灰色(口縁部赤褐色) ② 灰色 ③ 灰色	
124 36 34	提鉢 (須恵器)	①26.0 ②平形	口縁部は斜め上方へひろく。上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	内外面ココナダ。口縁部外面に2本の平行筋。	良好	埴土	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰色	
125 36 34	提鉢 (須恵器)	①33.0 ②平形	口縁部は内側気味に斜め上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	外縁ハケによるココナダ。内面ココナダ。	良好	1~2mmの砂粒を含む	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰色	
126 36 34	提鉢 (須恵器)	①28.0 ②平形	口縁部は内側気味に斜め上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	内外面ココナダ。	器い	器	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰色	
127 37 34	押鉢 (須恵器)	①22.0 ②ハケ	口縁部は斜め上方へひろく。上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	内外面ココナダ。外面口縁部筋調整。	良好		① 灰色(口縁部灰褐色) ② 灰色 ③ 灰色	
128 37 35	押鉢 (瓦葺)	①26.0 ②小羽	口縁部は斜め上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	内外面ココナダ。	良好	2mm以下の砂粒を含む	① 灰色 ② 灰色 ③ 褐色	
129 37 35	鉢 (須恵器)	①30.0 ②平形	口縁部は内側気味に斜め上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	外縁ハケによるココナダ。内面ココナダ。	良好	細砂(1~2mmの砂粒を含む)	① 青灰色 ② 青灰色 ③ 青灰色	
130 37 35	提鉢 (須恵器)	①26.0 ②平形	口縁部は内側気味に斜め上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	内外面ココナダ。口縁部外面に自然筋。	器い	器	① 青灰色(口縁部赤褐色) ② 灰色 ③ 灰色	
131 37 35	提鉢 (須恵器)	①26.0 ②平形	口縁部は内側気味に斜め上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	外縁ハケによるココナダ。内面ココナダ。	良好	緻密	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰色	片口鉢
132 37 35	提鉢 (須恵器)	①25.0 ②平形	口縁部は内側気味に斜め上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	内外面ココナダ。	良好	緻密	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰色	
133 38 35	提鉢 (須恵器)	①28.0 ②平形	口縁部は内側気味に斜め上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	内外面ココナダ。	良好	細砂 1mm以下の砂粒を含む	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰色	
134 38 35	提鉢 (須恵器)	①28.0 ②平形	口縁部は内側気味に斜め上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。西に1本の筋を持つ。	外面ココナダ、強いココナダにより内面が多い。内面ハケが多い。	良好	やぐれ 2~3mmの砂粒を多く含む	① 緑灰色 ② 褐色 ③ 灰白色	内面使用痕か
135 38 35	提鉢 (須恵器)	①28.0 ②平形	口縁部は斜め上方へひろく。上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	内外面ハケによるココナダ。	良好	1mmの砂粒を含む	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰色	
136 38 35	押鉢 (須恵器) 虎 紙	①10.5 ②小羽	平底。縁部から内面にかけて内面する。	内外面ナダ。表面へタ切り筋。	器い	精良	① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
137 38 35	提鉢 (七郎賞)	①30.0 ②平形	口縁部は斜め上方へひろく。口縁部は玉縁状になる。	外縁ハケ筋。内面ナダ。	良好	細砂 2mmの砂粒を含む	① 赤い黄褐色 ② 褐色 ③ 褐色	内面使用痕
138 38 35	提鉢 (瓦葺)	①30.0 ②平形	口縁部は内側気味に斜め上方へひろく。口縁部は肥厚し玉縁状になる。	外面ココナダ。内面ナダ。外面に強いココナダによる筋が多い。	良好	細砂 1mm以下の砂粒を含む	① 灰色 ② 灰白色 ③ 灰白色	内面使用痕か
139 39 35	提鉢 (瓦葺)	①33.0 ②平形	口縁部は斜め上方へひろく。口縁部は玉縁状になる。	内外面ナダ	良好	1~2mmの砂粒を含む	① 灰黄色 ② 褐色 ③ 灰白色	

通称番号 脚注番号 図記番号	名称	法電(cm) ①は径 ②は高さ	形態上の特徴	手摺上の特徴	構成	軸寸	①色質(外面) ②色質(内面) ③色質(断面)	備考
140 39 35	ナリ鉢 (土師製)	①32.0 ②12.9	口縁部は外気乾燥に耐め上方へひろく、口縁部は内傾する面を持つ。	内外面ナダ。外周縁部平直が多い。内面に6本を単位とした筋状状。	やや軟質	陶磁	①灰色(口縁部) ②色質(内面) ③色質(断面) ④灰色 ⑤黒褐色 ⑥灰黄色	
141 39 35	ナリ鉢 (備前産)	①26.0 ②不明	口縁部は斜め上方へひろく上方へのびる。口縁部は肥厚し内傾した面を持つ。	内外面ヨコナダ。内面に筋状状。	良好	1~2mmの砂粒を含む	① ぶい黄褐色 ② 黒褐色 ③ ぶい黄褐色	
142 39 35	ナリ鉢 (筑山製)	①15.0 ②不明	平底の短茎。底部から体部にかけて内湾する。	内外面ヨコナダ。内面に7本を単位とした筋状状。	良好	1mm位の砂粒を含む	① 緑灰色 ② 灰色 ③ 灰白色	
143 39 35	ナリ鉢 (筑山製)	①30.0 ②ヘカ	口縁部は斜め上方へひろく。口縁部は内傾する面を持つ。	内外面ヨコナダ。内面に6本を単位とした筋状状。	良好	1~2mmの砂粒を含む	① 灰色 ② 灰色 ③ 灰白色	
144 40 36	瓦蓋上部 底部	②不明		外面ハケ目	良好	2~3mmの砂粒を含む	① 灰色 ② 灰白色 ③ 灰白色	
145 40 36	瓦鉢 (土師製)	① 7.0 ②不明	平底の短茎。底部から体部にかけて内湾する。	内外面ナダ。	やや軟質	陶磁	① 黒褐色 ② 灰色	
146 40 36	瓦鉢 (土師製)	①34.0 ②不明	平底の短茎。口縁部は内湾気味に斜め上方へひろく。口縁部は上縁をなす。	内外面ヨコナダ。外面に指紋状状が多い。	軟質	陶磁	① 暗黒色 ② 灰色	
147 40 36	甗 (筑山製)底部	①19.0 ②不明	底部から体部にかけて斜め上方にひろく。	内面強いヨコナダによる凹凸を持つ。外面自然紋。				
148 - 36	須恵器蓋?	②不明			堅硬	精良	① 灰黄色	備前使小?
149 40 36	甗 (土師製)底部	①20.0 ②不明	平底の短茎。底部から体部にかけて斜め上にひろく。	内外面ナダ。	良	1mmの砂粒を含む	① 灰色 ② 灰白色 ③ 灰白色	
150 41 36	甗つまみ (土師製)	②不明	つまみ部分を彫りつける。	内外面ナダ。	やや軟質	精良	① 灰色	
151 41 36	甗付土鍋 (土師製)	①26.0 ②不明	口縁部は内傾しながら立ち上る。口縁部はわずかに外傾した面を持つ。外面に筋面が凸形の間がめぐる。	内外面ナダ。甗を本器に嵌り付け、取り付け部分をナゲが固す。甗部外面に指紋状状が多い。	良(やや軟質)	陶磁	① ぶい黄褐色 ② ぶい黄褐色	外周縁付着
152 41 36	甗付土鍋 (土師製)	①30.0 ②不明	口縁部は内傾しながら立ち上る。口縁部はわずかに外傾した面を持つ。外面に筋面が凸形の間がめぐる。	内外面ナダ。甗を本器に取り付け、取り付け部分をナゲが固す。甗部外面に指紋状状が多い。	軟質	精良	① 灰白色 ② 灰白色	外周縁付着、窪み状
153 41 37	瓦蓋片 (土師)	②不明			堅硬	精良	① 灰色	火かけ穴跡が深いところがある。
154 41 37	土師器片 (土師)	②不明			やや軟質	精良	① 灰色	
155 41 37	瓦蓋片 (土師)	②不明			堅硬	精良	① 暗褐色	
156 41 37	瓦蓋片 (土師)	②不明			堅硬	精良	① 灰色	
157 41 37	瓦蓋片 (土師)	②不明			堅硬	精良	① 灰色	
158 41 37	瓦蓋片 (土師)	②不明			堅硬	精良	① 暗褐色 ② 赤灰色	
159 41 37	瓦蓋片 (土師)	②不明			堅硬	精良	① 赤灰色	
160 42 37	甗 (備前製)底部	① 8.0 ②不明	底部は平底。縁部との短茎部分に黄褐色を彫りつける。両者は外側へ張り出す。	内外面ナダ。	堅硬	精良	① 灰色 ② 灰色	
161 42 37	甗 (筑山製)底部	①11.0 ②不明	底部は平底。筋面が凸形の間がめぐる。	内外面ナダ。	堅硬	精良	① 灰白色 ② 灰白色	
162 42 37	土師器片 (備前不明)	②不明			堅硬	精良	① 暗褐色	

規格番号 保固番号 及記号	種類	寸法(cm) ①仕様 ②公差	成形上の特徴	平地上的特徴	機能	配寸	① 色質(外面) ② 色質(内面) ③ 色質(断面)	備考	
163 42 37	土船断片(品 名不明)	②不明				出流	噴霧	① 明褐色 ② 暗灰色	
164 42 37	土船断片 (土船の固 り)	②不明				取組	細砂を含む	①暗褐色	
165 42 37	石橋	①14.5 ②不明	口縁部外面に断面が有形の筋 がめぐる。口縁部には水平な 面を持つ。体部は内湾する。	内外面ともノミ状工具で調 整後、丁寧に磨く。				① 黒灰色 ② 黒灰色 ③ 白褐色	浮石製。内外面 純分系に成付 き。
166 42 37	石橋	①18.0 ②不明	口縁部外面に断面が有形の筋 がめぐる。口縁部には水平な 面を持つ。体部は内湾する。	内外面ともノミ状工具で調 整後、丁寧に磨く。				① 灰色 ② 灰褐色 ③ 白褐色	滑石製。
167 42 37	石橋 (沈部)	②不明		内外面ともノミ状工具で調 整後、丁寧に磨く。				① 灰色 ② 灰褐色 ③ 白褐色	厚さ0.8~1.0cm
168 43 37	环 (土船断)	① 7.4 ② 1.3	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良好	噴霧		① 褐色 ② 灰褐色 ③ 赤褐色	
169 43 37	环 (土船断)	① 7.9 ② 1.0	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良好	1mmの砂粒 を含む		① 褐色 ② 灰褐色 ③ 赤褐色	
170 43 37	环 (土船断)	① 8.0 ② 1.2	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良好	1mmの砂粒 を含む		① 褐色 ② 灰褐色 ③ 赤褐色	
171 43 37	环 (土船断)	① 8.0		手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良好	1~2mmの 砂粒を含む		① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
172 43 37	环 (土船断)	① 8.0 ② 1.4	口縁部は内湾し、斜め上方に 延び、口縁部には筋が薄 くなり丸くおわる。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良好	1mmの砂粒 を含む		① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
173 43 37	环 (土船断)	① 8.2 ② 1.6	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	1~2mmの 砂粒を含む		① におい褐色 ② におい褐色 ③ におい褐色	
174 43 37	环 (土船断)	① 9.8 ② 1.3	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	1mm以下の 砂粒を含む		① におい褐色 ② におい褐色 ③ におい褐色	
175 43 37	环 (土船断)	① 7.8 ② 1.4	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	噴霧		① におい褐色 ② におい褐色 ③ におい褐色	
176 43 37	环 (土船断)	① 7.2 ② 1.3	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	1mm以下の 砂粒を含む		① におい褐色 ② におい褐色 ③ におい褐色	
177 43 38	环 (土船断)	① 9.2 ② 1.5	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	2~3mmの 砂粒を含む		① におい褐色 ② におい褐色 ③ におい褐色	
178 43 38	环 (土船断)	①12.0 ② 1.8	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	2~3mmの 砂粒を含む		① 灰褐色 ② 灰褐色 ③ 灰褐色	
179 43 38	环 (土船断)	① 8.2 ② 1.5	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	1mm以下の 砂粒を含む		① におい褐色 ② におい褐色 ③ におい褐色	
180 43 38	环 (土船断)	① 7.4 ② 1.3	口縁部はつままれてわずかに 外突する。口縁部には筋が 薄くなり丸くおわる。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	1mm以下の 砂粒を含む		① におい褐色 ② におい褐色 ③ におい褐色	
181 43 38	环 (土船断)	① 8.6 ② 1.2	口縁部はつままれてわずかに 外突する。口縁部には筋が 薄くなり丸くおわる。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	1~2mmの 砂粒を含む		① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
182 43 38	环 (土船断)	① 8.4 ② 1.5	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	1mm以下の 砂粒を含む		① 灰褐色 ② 灰褐色 ③ 灰褐色	
183 43 38	环 (土船断)	① 6.6 ② 1.2	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	1mm以下の 砂粒を多く 含む		① におい褐色 ② におい褐色 ③ におい褐色	
184 43 38	环 (土船断)	① 7.8 ② 1.9	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	1mm以下の 砂粒を多く 含む		① におい褐色 ② におい褐色 ③ におい褐色	
185 43 38	环 (土船断)	① 9.2 ② 1.2	口縁部に凹凸し、斜め上方に 延び、口縁部には筋が薄 くなり丸くおわる。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	2mm位の砂 粒を含む		① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
186 43 38	环 (土船断)	① 8.2 ② 1.2	口縁部は内湾する。口縁部 には筋が薄くなり丸くおわ る。	手づくね整形後、内外面ナ ゲ。	良	1mm以下の 砂粒を含む		① におい褐色 ② におい褐色 ③ におい褐色	

産物番号 荷役番号	品名	径 (cm) ① 口径 ② 底径	形態上の特徴	手法上の特徴	状態	用途	① 色調(外面) ② 色調(内面) ③ 色調(断面)	備考
187 43 38	杯 (十割器)	① 7.6 ② 1.0	口縁部は内湾する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	手づくお椀形後、内外面ナデ。	良	2mm以下の砂粒を含む。	① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
188 43 38	杯 (土師器)	① 10.8	口縁部は内湾する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	内外面ココナデ。	良	1mm以下の砂粒を含む。	① にぶい褐色 ② にぶい褐色 ③ にぶい褐色	
189 43 38	杯 (土師器)	① 8.0 ② 1.3	口縁部は内湾する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	手づくお椀形後、内外面ナデ。	良	1mm位の砂粒を含む。	① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
190 43 38	杯 (土師器)	① 7.8 ② 1.2	口縁部は内湾する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	手づくお椀形後、内外面ナデ。	良	2mm以下の砂粒を含む。	① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
191 43 38	杯 (土師器)	① 7.2 ② 1.5	口縁部はつままれてわずかに外反する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	手づくお椀形後、内外面ナデ。	良	1mm以下の砂粒を含む。	① 黄褐色 ② 黄褐色 ③ 黄褐色	
192 43 38	杯 (土師器)	① 9.0 ② 1.7	口縁部はつままれてわずかに外反する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	コクコ型形、内外面ココナデ。	良好	1～2mmの砂粒を含む。	① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
193 43 38	杯 (土師器)	① 8.6 ② 1.5	口縁部はつままれてわずかに外反する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。底部内面に凹みがある。	コクコ型形、内外面ココナデ。底部糸切り痕。	良好	顕微	① 灰黄褐色 ② 灰黄褐色 ③ 灰黄褐色	
194 43 38	杯 (土師器)	① 11.0 ② 1.9	口縁部はわずかに外反してから、斜め上方にひらく。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	コクコ型形、内外面ココナデ。	良好	顕微	① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
195 43 38	杯 (土師器)	① 10.0 ② 1.6	口縁部はわずかに外反してから、斜め上方にひらく。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	コクコ型形、内外面ココナデ。	良好	顕微	① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
196 43 38	杯 (土師器)	① 8.0 ② 1.4	口縁部は大きく外反して、斜め上方にひらく。口縁部は丸くおわる。	コクコ型形、内外面ココナデ。底部糸切り痕。	良好	顕微	① にぶい褐色 ② にぶい褐色 ③ にぶい褐色	
197 44 38	杯 (土師器)	① 7.6 ② 1.7	口縁部はつままれてわずかに外反する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	コクコ型形、内外面ココナデ。底部糸切り痕。	良	1mm以下の砂粒を含む。	① にぶい褐色 ② にぶい褐色 ③ にぶい褐色	
198 44 38	杯 (土師器)	① 7.8 ② 1.6	口縁部はつままれてわずかに外反する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	コクコ型形、内外面ココナデ。底部糸切り痕。	良	1mm位の砂粒を含む。	① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
199 44 38	杯 (土師器)	① 8.0	口縁部はわずかに外反してから、斜め上方にひらく。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	コクコ型形、内外面ココナデ。	良好	1～2mmの砂粒を含む。	① 褐色 ② 黄褐色 ③ 灰褐色	
200 44 38	杯 (土師器)	① 10.0	口縁部は内湾する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	手づくお椀形後、内外面ナデ。	良	1～2mmの砂粒を含む。	① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
201 44 38	杯 (土師器)	① 12.0	口縁部はつままれてわずかに外反する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	手づくお椀形後、内外面ナデ。底部を施す。	良好	1～2mmの砂粒を含む。	① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
202 44 38	杯 (土師器)	① 8.0	口縁部は前面に、斜め上方に折ひらく。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	手づくお椀形後、内外面ナデ。	良	顕微	① 黄褐色 ② 黄褐色 ③ 黄褐色	
203 44 38	杯 (土師器)	① 9.0	口縁部はつままれてわずかに外反する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	手づくお椀形後、内外面ナデ。	良	顕微	① にぶい褐色 ② にぶい褐色 ③ にぶい褐色	
204 44 38	杯 (土師器)	① 6.0	口縁部はつままれてわずかに外反する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	手づくお椀形後、内外面ナデ。	良	顕微	① にぶい褐色 ② にぶい褐色 ③ 外側にぶい褐色、内側黄褐色	断面がサンドイッチ状。
205 44 38	杯 (土師器)	① 8.4	口縁部は内湾する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	手づくお椀形後、内外面ナデ。	良	1mm以下の砂粒を含む。	① にぶい褐色 ② にぶい褐色 ③ にぶい褐色	
206 44 38	杯 (土師器)	① 8.4	口縁部は内湾する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	手づくお椀形後、内外面ナデ。	良	1mm以下の砂粒を含む。	① にぶい褐色 ② にぶい褐色 ③ にぶい褐色	
207 44 38	杯 (土師器)	① 7.4 ② 1.5		手づくお椀形後、内外面ナデ。	良	1mm以下の砂粒を含む。	① 灰黄褐色 ② 灰黄褐色 ③ 灰黄褐色	
208 44 38	杯 (土師器)	① 8.0 ② 1.4	口縁部は内湾する。口縁部は器壁が薄くなり丸くおわる。	手づくお椀形後、内外面ナデ。	良	2～3mmの砂粒を含む。	① にぶい褐色 ② にぶい褐色 ③ にぶい褐色	

手形番号 採得番号 図説番号	群号	径長 (cm) ① 径長 ② 径長	形制上の特徴	平地上的特徴	焼成	胎土	① 色調(外面) ② 色調(内面) ③ 色調(胎土)	備考
209 44 38	Ⅱ (土師器)	① 16.0 ② 2.3	口縁部は内湾しながら筋の上方へのびる。口縁部は胎土が薄くなり丸くおわる。	ロクロ製形。内外面コナダ。	煮	1mm以下の砂粒を含む	① 灰黄褐色 ② 灰黄褐色 ③ 灰黄褐色	
210 41 38	Ⅱ(副) Ⅱ(副) (土師器)	① 6.5	底面内面は内湾する。内面は溝状の内湾を持つ。	内胎土を過ぎる様に積み上げられた製法。	灰焼	精兵	① 灰白色 ② 灰白色 ③ 灰白色	
211 54 32	Ⅱ (土師器)	① 7.4 ② 1.4	口縁部はつままれてわずかに外反する。口縁部は胎土が薄くなり丸くおわる。	手づくお製形後、内外面コナダ。内面に蓋蓋あり。	灰焼	胎土を含む	① 明灰褐色 ② 明灰褐色 ③ 明灰褐色	縦軸長ではないかといわれる蓋片。
212 44 36	Ⅱ (土師器)	① 13.0 ② 3.0	口縁部は底面からわずかに外反し内湾しながら筋の上方へのびる。口縁部は胎土が薄くなり丸くおわる。	コクロ製形。内外面コナダ。	灰好	1mmの砂粒を含む	① にぶい褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
213 41 38	Ⅱ (土師器)	① 11.0 ② 3.0	口縁部は底面からわずかに外反し内湾しながら筋の上方へのびる。口縁部は丸くおわる。	コクロ製形。内外面コナダ。	灰好	1～2mmの砂粒を含む	① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
214 41 38	Ⅱ (土師器)	① 14.0 ② 3.1	口縁部は内湾する体部より筋直し上方へのびる。口縁部は丸くおわる。	内外面コナダ	灰好	1～2mmの砂粒を含む	① 灰白色 ② 灰白色 ③ 灰白色	
215 44 38	Ⅱ (土師器)	① 14.0 ② 2.8	口縁部は底面からわずかに外反し内湾しながら筋の上方へのびる。口縁部は胎土が薄くなり丸くおわる。	ロクロ製形。内外面コナダ。	灰好	1～2mmの砂粒を含む	① 褐色 ② 褐色 ③ 褐色	
216 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	灰焼	精兵	① 灰白色	
217 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	灰好	胎土	① 灰褐色	
218 54 30	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	良	胎土	① 褐色	
219 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	灰好	胎土	① 黄褐色	
220 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	灰好	胎土	① にぶい褐色	
221 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	良	1～2mmの砂粒を含む	① 灰白色	
222 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	良	胎土	① 灰黄褐色	
223 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。表面に赤彩を施す。	良	胎土	① 褐色	
224 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	良	胎土	① にぶい赤褐色	
225 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	良	胎土	① にぶい黄褐色	
226 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	良	胎土	① にぶい褐色	
227 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	良	胎土	① にぶい黄褐色	
228 55 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。表面に赤彩を施す。	良	胎土	① にぶい褐色	
229 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	良	胎土	① にぶい黄褐色	
230 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	良	胎土	① にぶい褐色	
231 45 39	Ⅱ (土師器)		中央部が大きく胎土が薄い円筒形。	手づくお製形後コナダ。	良	胎土	① にぶい褐色	

品物番号 採集番号 調査番号	器種	径寸(cm) ①口縁 ②底径	形態上の特徴	手法上の特徴	構成	胎土	① 色調(内面) ② 色調(内底) ③ 色調(胎土)	備考
232 45 39	土罐 (十郎瓶)		中央部が太く肩部が細い円筒形	手づくお雛形後ナダ。	良	緻密	①褐色	
233 15 39	土罐 (土師器)		中央部が太く肩部が細い円筒形	手づくお雛形後ナダ。	良	緻密	①にぶい黄褐色	
234 45 39	土罐 (土師器)		中央部が太く肩部が細い円筒形	手づくお雛形後ナダ。	良	緻密	①にぶい黄褐色	表面着色の色色あり
235 45 39	土師 (土師器)		中央部が太く肩部が細い円筒形	手づくお雛形後ナダ。	良	緻密	①にぶい黄褐色	
236 46 39	土師 (土師器)		中央部が太く肩部が細い円筒形	手づくお雛形後ナダ。	良	緻密	①灰褐色	
237 46 39	土師 (土師器)		中央部が太く肩部が細い円筒形	手づくお雛形後ナダ。	良	緻密	①にぶい褐色	
238 16 39	土師 (土師器)		中央部が太く肩部が細い円筒形	手づくお雛形後ナダ。	良	緻密	①にぶい褐色	
239 46 39	土罐 (土師器)		中央部が太く肩部が細い円筒形	手づくお雛形後ナダ。	良	緻密	①褐色	
240 46 39	土師 (土師器)		中央部が太く肩部が細い円筒形	手づくお雛形後ナダ。表面に赤彩を施す。	良	緻密	①にぶい黄褐色	
241 46 39	土師 (土師器)		中央部が太く肩部が細い円筒形	手づくお雛形後ナダ。	良	緻密	①にぶい褐色	
242 46 39	土師 (土師器)		中央部が太く肩部が細い円筒形	手づくお雛形後ナダ。	良	緻密	①にぶい褐色	
243 46 39	輸入陶磁器 (白磁器)	①12.0 ②不明	口縁部は内湾気味に斜め上方へひらき、玉縁をなす。	内外面に釉薬を施す。	良好	緻密	① 白色(胎) ② 白色(胎) ③ 白色	白磁器TV
244 46 39	国産陶磁器 (白磁器)	① 3.0 ②不明	底部に断面が台形の高出を形成し出す。	内外面に釉薬を施す。高台内部にも釉薬がまわる。	良好	緻密	① 白色(胎) ② 白色(胎) ③ 白色	肥前白磁 17C後手→18C前半
245 46 39	国産陶磁器	①10.1 ②不明	口縁部は内湾気味に斜め上方へひらき、口縁部は丸くおわる。	内外面に釉薬を施す。	良好	緻密 雑染 な胎土	① 白色(胎) ② 白色(胎) ③ 白色	肥前白磁 18C前半
246 46 39	輸入陶磁器 (青磁器)	① 7.4 ②不明	底部に断面が台形の高出を形成し出す。	内外面に釉薬を施す。高台内部にも釉薬がまわる。釉薬に細かい亀裂。	良好	緻密	① 青褐色(胎) ② 青褐色(胎) ③ 灰白色	肥前青磁
247 46 39	輸入陶磁器 (白磁器)	① 9.0 ②不明	底部に断面が台形の高出を形成し出す。	内外面に釉薬を施す。高台内部は艶染。	良好	緻密	① 青褐色(胎) ② 青褐色(胎) ③ 黄褐色(胎)	白磁器豊田-1
248 46 39	輸入陶磁器 (白磁器)	① 5.6 ②不明	底部に断面が台形の高出を形成し出す。	内外面に釉薬を施す。高台部分は艶染。	良好	緻密 雑染 な胎土	① 灰白(胎) ② 灰白色 ③ 灰白色	白磁器 豊田17C～18C、丹波に化粧か?
249 46 39	輸入陶磁器 (白磁器)	①14.0 ②不明	口縁部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は外縁につまみれ外反する。	内外面に釉薬を施す。釉薬に細かい亀裂。	良好	緻密 雑染 な胎土	① 白色(胎) ② 白色(胎) ③ 白色	白磁器V17 18C?
250 46 39	輸入陶磁器 (白磁器)	①11.9 ②不明	口縁部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は外縁につまみれ外反する。	内外面に釉薬を施す。釉薬に細かい亀裂。	良好	緻密 雑染 な胎土	① 白色(胎) ② 白色(胎) ③ 白色	白磁器 豊田P2 16C
251 46 39	輸入陶磁器 (白磁器)	①10.0 ②不明	平底の底部から垂直に内湾気味に立ち上る口縁部に続く、内面直気味に片縁状の厚み。	内外面に釉薬を施す。	良好	緻密 雑染 な胎土	① 灰色(胎) ② 灰色(胎) ③ 白色	白磁器豊田 3
252 46 39	輸入陶磁器 (白磁器)	①10.0 ②不明	平底の底部から垂直に内湾気味に立ち上る口縁部に続く、内面直気味に片縁状の厚み。	内外面に釉薬を施す。	良好	緻密 雑染 な胎土	① 灰色(胎) ② 灰色(胎) ③ 白色	白磁器豊田-26
253 46 39	国産陶磁器 (白磁器)	①12.0 ②不明	口縁部は内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸い。	内外面に釉薬を施す。	良好	緻密 雑染 な胎土	① 白色(胎) ② 白色(胎) ③ 白色	肥前 18C胎
254 47 40	輸入陶磁器 (青磁器)	①15.0 ②不明	口縁部は外反する。口縁部は丸い。	内外面に釉薬を施す。胎土内部に赤彩を施す。	良好	緻密	① 青褐色(胎) ② 青褐色(胎) ③ 灰白色	龍泉陶 1-5b
255 47 40	輸入陶磁器 (青磁器)	①12.0 ②不明	口縁部は内湾する。口縁部は丸い。	内外面に釉薬を施す。胎土内部に赤彩を施す。釉薬に細かい亀裂。	良好	緻密	① 灰白(胎) ② 灰白(胎) ③ 灰白色	龍泉陶 1-5b

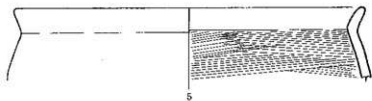
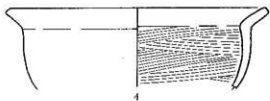
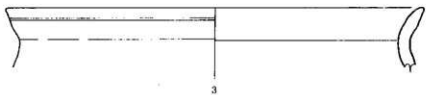
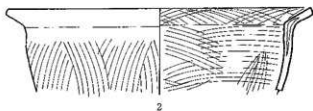
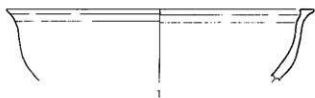
番号 内記号 図記号	名称	寸法 (mm) ①コ径 ②不明	形態上の特徴	寸法上の特徴	地成	加工	① 色調(外周) ② 色調(内周) ③ 色調(両面)	備考
256 47 40	輸入陶磁器 (青磁碗)	①16.2 ②不明	口縁部はわずかに内湾する。 口縁端部は丸い。	内外面に釉薬を施す。体部 外面に墨弁文を施す。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 緑色(釉) ② 緑色(釉) ③ 灰白色	龍泉窯 I-5b
257 47 40	輸入陶磁器 (青磁碗)	①14.0 ②不明	口縁部は内湾する。口縁端部 は丸い。	内外面に釉薬を施す。体部 外面に墨弁文を施す。釉薬 に墨かゝりぬ。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 緑色(釉) ② 緑色(釉) ③ 灰白色	龍泉窯 I-3b
258 47 40	輸入陶磁器 (青磁碗)	①16.0 ②不明	口縁部はわずかに内湾する。 口縁端部は丸い。	内外面に釉薬を施す。体部 外面に墨弁文を施す。釉薬 に墨かゝりぬ。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 緑色(釉) ② 緑色(釉) ③ 灰白色	龍泉窯 I-3b
259 47 40	輸入陶磁器 (青磁碗)	①17.2 ②不明	口縁端部は丸い。	内外面に釉薬を施す。体部 外面に墨弁文を施す。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 緑色(釉) ② 緑色(釉) ③ 灰白色	龍泉窯 I-5b
260 47 40	輸入陶磁器 (青磁碗)	①13.4 ②不明	口縁部に外張する。口縁端部 は丸い。	内外面に釉薬を施す。体部 外面に墨弁文を施す。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 緑色(釉) ② 緑色(釉) ③ 灰白色	龍泉窯 I-6b
261 47 40	輸入陶磁器 (青磁碗)	①15.4 ②不明	口縁部は外張する。口縁端部 は丸い。	内外面に釉薬を施す。体部 外面に墨弁文を施す。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 緑色(釉) ② 緑色(釉) ③ 灰白色	龍泉窯 I-5b
262 47 40	輸入陶磁器 (白磁碗)	①12.2 ②不明	口縁端部は丸い。	内外面に釉薬を施す。釉薬 に墨かゝりぬ。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 緑色(釉) ② 緑色(釉) ③ 灰白色	龍泉窯 I-5b
263 47 40	輸入陶磁器 (青磁碗) 底部	① 5.8 ②不明	底部に断面が台形の突起を前 り出す。	内外面に釉薬を施す。高台 内部は無釉。底部内部にか つた文。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 緑色(釉) ② 緑色(釉) ③ 灰白色	龍泉窯 I-5a
264 47 40	輸入陶磁器 (青磁碗)	① 6.0 ②不明	底部に断面が台形の突起を前 り出す。	内外面に釉薬を施す。高台 内部は無釉。底部内部に文 様を施す。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 緑色(釉) ② 緑色(釉) ③ 灰白色	龍泉窯 I-5c
265 48 40	輸入陶磁器 (青磁碗) 底部	① 6.0 ②不明	底部に断面が長方形の突起を 前り出す。	内外面に釉薬を施す。高台 内部は無釉。	良好	磁器	① 緑色(釉) ② 緑色(釉) ③ 灰白色	龍泉窯 I-3b
266 48 40	輸入陶磁器 (青磁碗) 底部	①3.0 ②不明	底部に断面が長方形の突起を 前り出す。	内外面に釉薬を施す。高台 内部は無釉。	良好	磁器	① 緑色(釉) ② 緑色(釉) ③ 灰白色	龍泉窯 I-5b
267 48 40	輸入陶磁器 (青磁碗)	①12.0 ②不明	口縁部は内湾気味に立ち上り 外反する。口縁端部は丸い。	内外面に釉薬を施す。釉薬 に墨かゝりぬ。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 緑色(釉) ② 緑色(釉) ③ 灰白色	龍泉窯 IV
268 48 41	輸入陶磁器 (白磁碗)	①12.0 ②不明	口縁部は内湾気味に立ち上り 外反する。口縁端部は内傾す る面を持つ。	内外面に釉薬を施す。口縁 端部は無釉。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 白色(釉) ② 白色(釉) ③ 灰白色	口内 白磁碗 I
269 48 41	輸入陶磁器 (白磁碗)	①12.0 ②不明	口縁部は内湾気味に立ち上り 外反する。口縁端部はつま まれている。	内外面に釉薬を施す。口縁 端部は無釉。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 白色(釉) ② 白色(釉) ③ 灰白色	口内 白磁碗 I
270 48 41	輸入陶磁器 (白磁碗)	①10.0 ②不明	口縁部は内湾気味に立ち上り 外反する。口縁端部は内傾す る面を持つ。	内外面に釉薬を施す。口縁 端部は無釉。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 白色(釉) ② 白色(釉) ③ 灰白色	口内 白磁碗 I
271 48 41	輸入陶磁器 (白磁碗)	① 9.2 ② 2.6	口縁部は平直な底面より筒高 して内湾気味に立ち上る。 口縁端部は丸い。内面底部部 分に沈線状の文。	内外面に釉薬を施す。口縁 端部は無釉。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 白色(釉) ② 白色(釉) ③ 灰白色	口内 白磁碗 IX-2
272 48 41	輸入陶磁器 (白磁碗)	①10.0 ②不明	口縁部は内湾気味に立ち上 る。口縁端部はつままれている。 口縁端部は丸い。	内外面に釉薬を施す。口縁 端部は無釉。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 白色(釉) ② 白色(釉) ③ 白色	口内 白磁碗 IX-a-c
273 48 41	輸入陶磁器 (白磁碗)	①12.0 ②不明	口縁部は内湾気味に立ち上り 外反する。口縁端部は内傾す る面を持つ。	内外面に釉薬を施す。口縁 端部は無釉。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 白色(釉) ② 白色(釉) ③ 白色	口内 白磁碗 IX
274 48 41	輸入陶磁器 (白磁碗)	①12.0 ② 2.3	口縁部は内湾気味に立ち上り 外反する。口縁端部はつま まれている。	内外面に釉薬を施す。口縁 端部は無釉。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 白色(釉) ② 白色(釉) ③ 白色	口内 白磁碗 IX-1
275 48 41	五箇面陶磁器	①11.0 ②不明	口縁部は内湾気味に立ち上 る。口縁端部は丸い。	内外面に釉薬を施す。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 緑色(釉) ② 緑色(釉) ③ 灰白色	龍泉窯 I 竹野 18C 附子
276 48 41	五箇面陶磁器 (黒切)	① 4.8 ②不明	高台部分を前り出す。高台部 分は外面に傾斜を施す。	内外面に釉薬を施す。高台 部分は無釉。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 緑色(釉) ② 青黄色(釉) ③ 白色	龍泉窯 1590-1630
277 48 41	四箇面陶磁器	①12.2 ②不明	口縁部は内湾しながら立ち上 る。口縁端部は丸い。	内外面に釉薬を施す。	良好	磁器 精磨 な粘土	① 白色(釉) ② 白色(釉) ③ 灰白色	小ノのため不明
278 48 41	四箇面陶磁器 (すり鉢)	①36.0 ②不明	口縁部は外張する。口縁端部 は肥厚したくおわる。	内外面に釉薬を施す。口縁端部 を外側に折り返して押さえる。 内面に磨面を施す。	良好	磁器	① 青黄色 ② 青黄色 ③ 青黄色	口内 地方の遺 物? 15-19Cか
279 48 41	輸入陶磁器 (磁器)	① 5.0 ②不明	高台部分を前り出す。高台内 部は丸い。	内外面に釉薬を施す。高台部 分は無釉。釉薬に墨かゝりぬ。 底面に磨面を施す。	良好	磁器	① ない(黄色) ② ない(黄色) ③ 黄褐色	龍泉窯 I-5b

産物番号 洋字番号 国産番号	産種	品質(m)	形状上の特徴	手法上の特徴	地産	加工	① 色面(外側) ② 色面(内面) ③ 色面(断面)	備考
280 49 41	宝珠肉御膳 餅 (底部)	① 4.2 ②不明	底部に断面が台形の高さを帯り出す。	内外面に糊着を施す。糊着に細かい亀裂。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 緑色(餅) ② 緑色(餅) ③ 灰白色	肥前 野原 象十 18C後半
281 49 41	宝珠肉御膳	① 17.2 ②不明	口縁部は内側に突起し外側平る。口縁端部は丸い。	内外面ヨコナデ。口縁部にう状粒。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 暗赤褐色 ② 暗赤褐色 ③ 灰白色	肥前 守り餅 17C第2回(内)～ 第3回(外)
282 49 41	宝珠肉御膳	① 22.0 ②不明	口縁部は丸い。	断面外面に2条の平行状線。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 灰白色 ② 灰白色 ③ 赤灰色	肥前 片口餅 17C後半～18C後半
283 49 41	宝珠肉御膳	① 13.6 ②不明	口縁部は外反気味に立ち上る。口縁端部は丸い。	内外面に糊着を施す。糊着に細かい亀裂。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 緑色(餅) ② 緑色(餅) ③ 灰白色	小片のため不明
284 49 41	宝珠肉御膳	① 9.6 ②不明	口縁部は外反気味に立ち上る。口縁端部は丸い。	内外面に糊着を施す。糊着に細かい亀裂。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 灰白色(餅) ② 灰白色(餅) ③ 灰白色	肥前 海防空付 18C前半
285 49 41	宝珠肉御膳	① 8.2 ②不明	口縁部は外反しながら立ち上る。口縁端部は丸い。	内外面ヨコナデ。内外面に自然粒。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 細かい赤褐色 ② 細かい赤褐色 ③ 灰白色	小片のため不明
286 49 41	宝珠肉御膳	① 13.0 ②不明	口縁部は外反しながら立ち上る。口縁端部は大きく肥厚し丸い。	内外面ヨコナデ。タタキ成形。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 暗赤褐色 ② 暗赤褐色 ③ 灰白色	伊豆 豊 17～18C
287 49 42	宝珠肉御膳 (底面)	① 1.8 ②不明	底部に断面が台形の高さを帯り出す。	内外面に糊着を施す。底面内面の縁状のハケ目部分は無縁部分。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 緑色(餅) ② 灰白色(餅) ③ 灰白色	肥前 船野 17C後半～18C前半
288 49 42	宝珠肉御膳 (底面)	① 15.0 ②不明	口縁部は内湾しながら立ち上る。口縁端部はつままれる。	内外面に糊着を施す。糊着に細かい亀裂。	良好	麻布	① 緑色(餅) ② 緑色(餅) ③ 灰白色	肥前 豊 14～16C
289 49 42	輸入肉御膳 今子	① 4.0 ②不明	口縁部は平坦な高さを帯り内湾して立ち上がり肥厚する。口縁端部は縁部が薄くなりおぼろ。	内面、外面全体上部に糊着を施す。口縁端部をへりて押さえる。	良好	麻布	① 緑色(餅) ② 緑色(餅) ③ 灰白色	徳島 今子 13C
290 49 42	宝珠肉御膳 (灰小皿)	① 12.0 ②不明	口縁部に外積する。口縁端部は丸い。	内外面に糊着を施す。	良好	麻布	① 緑褐色(餅) ② 緑褐色(餅) ③ 灰白色	11～16C 空町 灰平
291 49 42	宝珠肉御膳 (底面)	① 4.2 ②不明	底面は外積する。	内外面に糊着を施す。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 細かい赤褐色 ② 赤褐色(餅) ③ 灰白色	肥前 大津 空町 灰平
292 49 42	宝珠肉御膳 (灰小皿)	① 10.0 ②不明	口縁部は内湾しながら立ち上がり外積する。口縁端部はつままれる。	内外面に糊着を施す。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 暗赤褐色(餅) ② 暗赤褐色(餅) ③ 灰白色	肥前 大津 空町 灰平
293 49 42	宝珠肉御膳 餅	① 10.0 ②不明	口縁部は内湾しながら立ち上る。口縁端部は丸い。	内外面に糊着を施す。糊着に細かい亀裂。	良好	麻布	① 灰白色(餅) ② 灰白色(餅) ③ 灰白色	肥前 影原 手粉 17C後半～18C前半
294 50 42	宝珠肉御膳 底面	① 5.0 ②不明	底面に断面が台形の高さを帯り出す。	内外面に糊着を施す。高台内面にも糊着がまわる。糊着に細かい亀裂。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 灰白色(餅) ② 灰白色(餅) ③ 細かい赤褐色	肥前 影原 手粉 17C後半
295 50 -	輸入肉御膳	① 10.0 ②不明	口縁部は内湾気味に立ち上る。口縁端部はつままれる。	内外面に糊着を施す。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 白色(餅) ② 白色(餅) ③ 白色	万葉 1590～1630
296 50 -	宝珠肉御膳	① 10.6 ②不明	口縁部は内湾気味に立ち上る。口縁端部は丸い。	外面に糊着を施す。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 白色(餅) ② 白色(餅) ③ 白色	肥前 影原 手粉 17C後半～18C前半
297 50 -	宝珠肉御膳 (小皿底面)	① 2.6 ②不明	底面に断面が台形の高さを帯り出す。	外面に「大明成」と思われる染めかけ文字あり。	良好	麻布 粘着 な粉土	① 白色(餅) ② 白色(餅) ③ 白色	肥前 1650～60 外面に「大明成」
298 -	石製品							
299 -	石製品							環状の石
300 50 43	石製品							火山岩がけ、小さな穴が多い環状の石
301 50 -	石製品							火山岩がけ、小さな穴が多い石
302 -	石製品							環状の石
303 -	石製品							環状の石

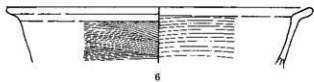
国産番号 材料番号 区分符号	原料	重量 (ca) ① 11種 ② 25種	形態上の特徴	手以上の特徴	焼成	粘土	① 色調(外面) ② 色調(内面) ③ 色調(断面)	備考
304 - -	石製品							球状の石
305 - 43	石製品							に広い帯状色の 球状の石
306 - -	石製品							使用開始あり
307 - -	石製品							
308 - -	石製品							球状の石
309 - -	石製品							火山岩か?、小点 な穴が多い球状 の石
310 51 43	石製品 (磁石)							2~3mmの石英 等の砂粒を全 む、使用成績め られず
311 51 43	石製品 (磁石)							使用開始あり
312 51 43	石製品 (磁石)							
313 51 54	石製品 (磁石)							純石の一部か? 使用開始あり
314 51 44	石製品							一面だけ青色。 石帯(赤色)を塗 っている
315 52 44	石製品 (磁石・磁石)				良好	緻密	① 明緑灰色 ② 暗緑灰色 ③ 明緑灰色	
316 52 41	石製品 (磁石)							使用開始あり
317 - -	石製品							
318 52 44	石製品 (磁石)							使用開始あり
319 52 41	石製品 (磁石か?)							灰褐色のイ、ま め緑か?成子
320 52 44	石製品							石製の緑の 細 か
321 53 44	石製品 (磁石)							灰オリーブ色の 石、使用あり
322 53 44	石製品							何に使用した物 かは不明先導二 品、他ほう一割 割丁底あり
323 53 -	石製品							黒色の塊状の石

遺物実測図

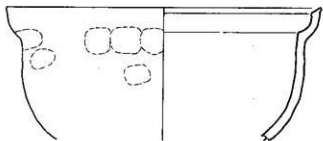
國語大辭典



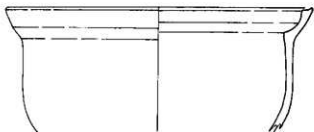
挿圖13



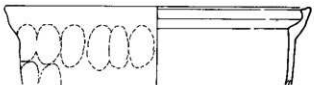
6



7



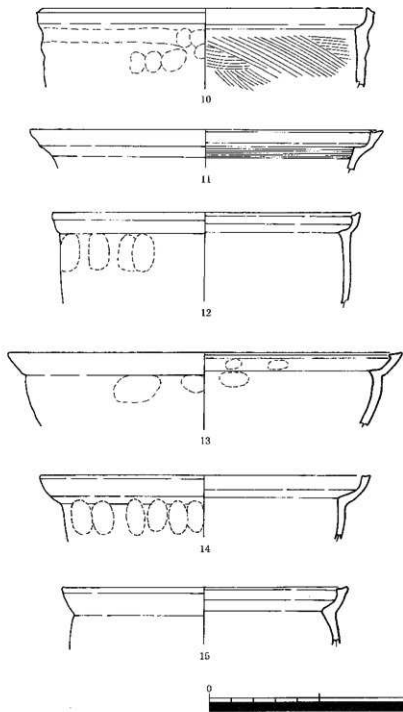
8



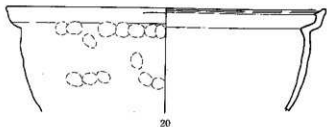
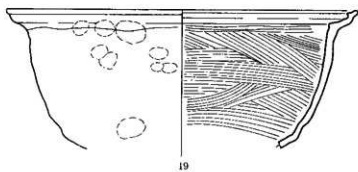
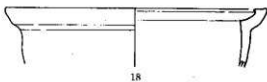
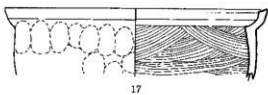
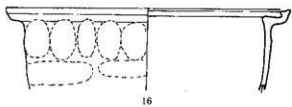
9



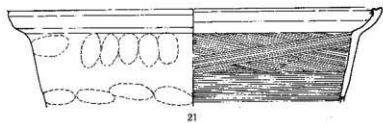
挿図14



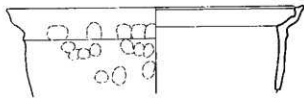
挿圖15



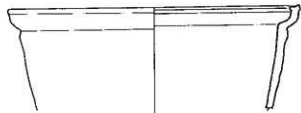
挿図16



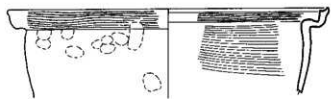
21



22



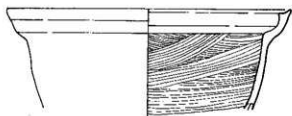
23



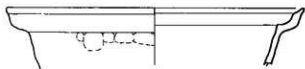
24



挿圖17



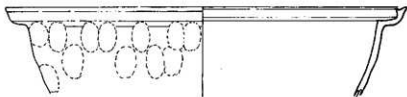
25



26



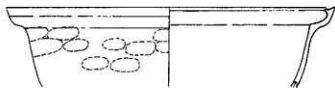
27



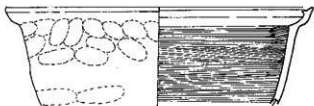
28



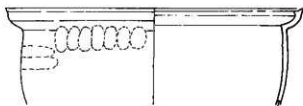
挿圖18



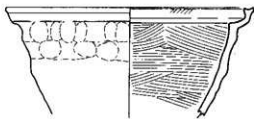
29



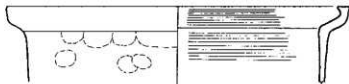
30



31



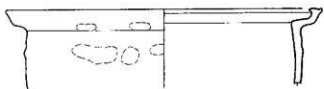
32



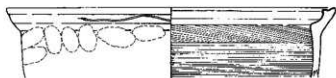
34



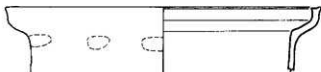
挿図19



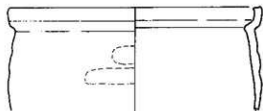
35



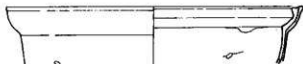
36



37



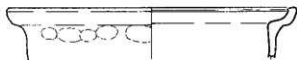
38



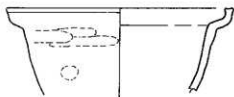
39



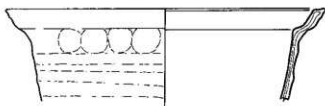
挿圖20



40



41



42



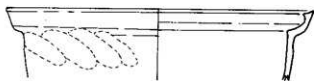
43



44



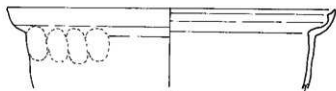
插图21



46



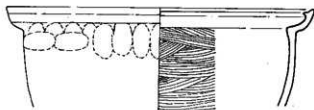
47



48



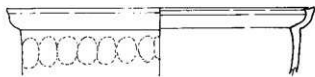
49



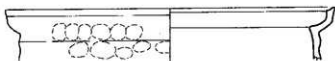
50



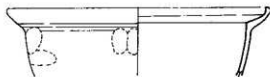
挿圖22



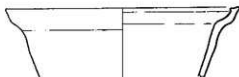
51



52



53



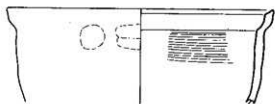
54



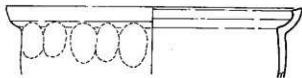
55



挿図23



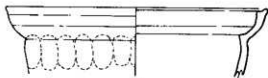
56



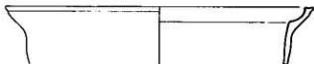
57



58



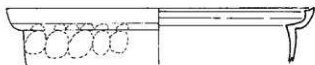
59



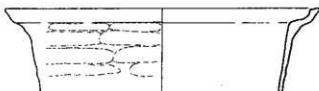
60



挿圖24



61



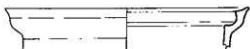
62



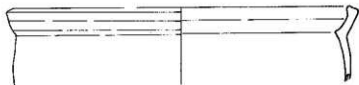
63



64



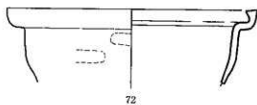
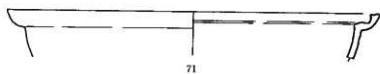
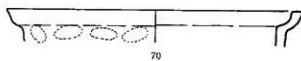
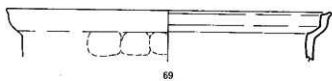
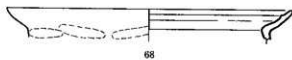
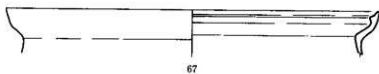
65



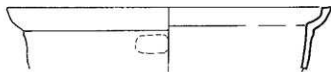
66



挿図25



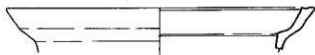
挿図26



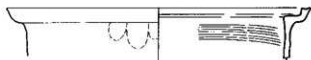
73



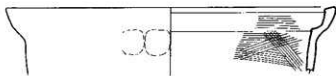
74



75



76



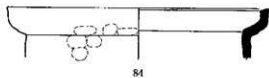
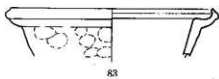
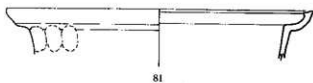
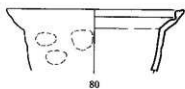
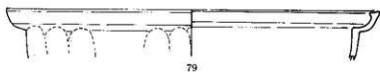
77



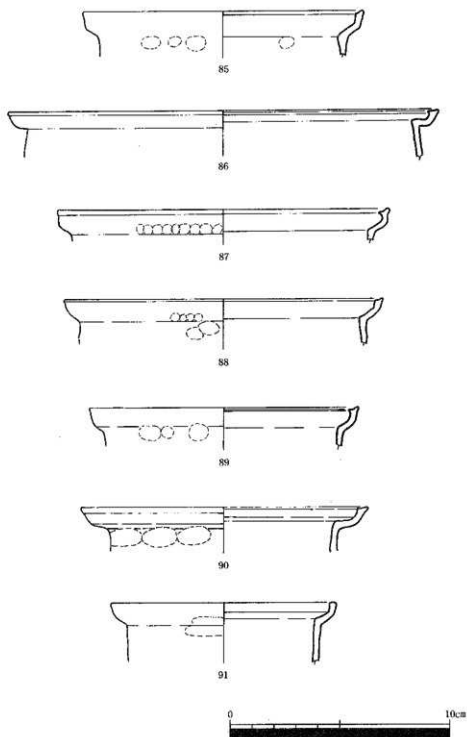
78



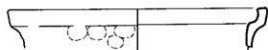
挿図27



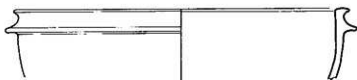
挿圖28



挿図29



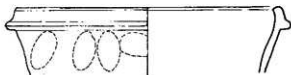
92



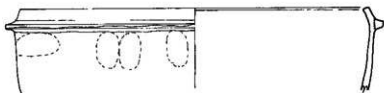
93



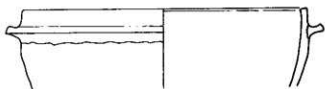
94



95



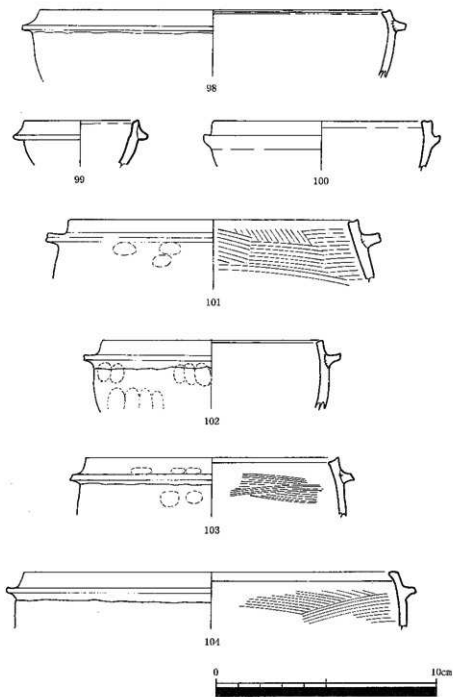
96



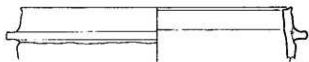
97



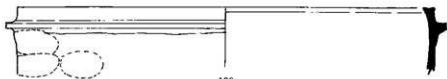
插图30



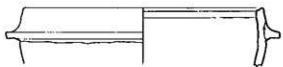
挿図31



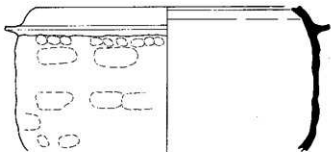
105



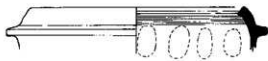
106



107



108



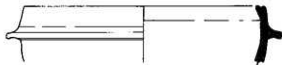
109



插图32



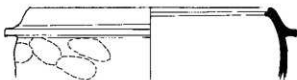
110



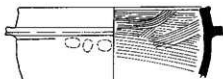
111



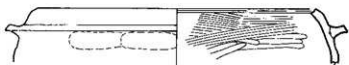
112



113



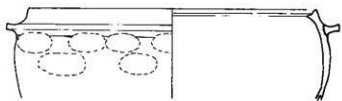
114



115



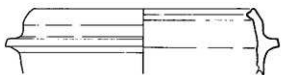
插图33



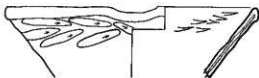
116



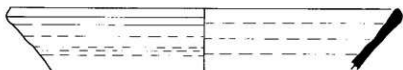
117



118



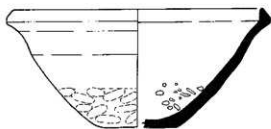
120



121



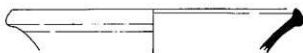
插图34



122



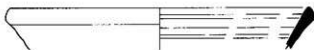
123



124



125



126



挿図35

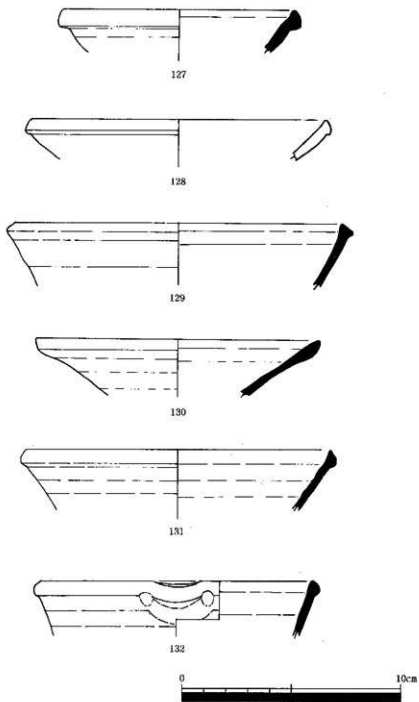
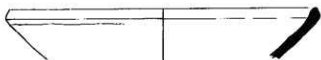
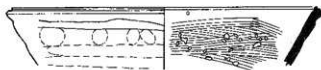


插图36



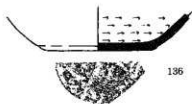
133



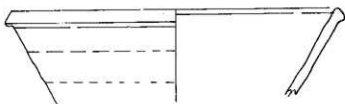
134



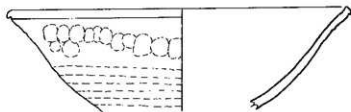
135



136



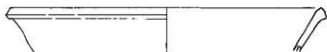
137



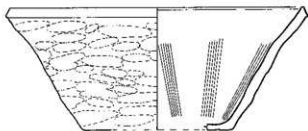
138



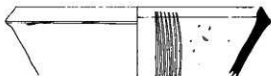
挿図37



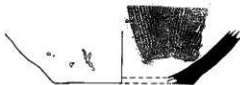
139



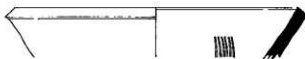
140



141



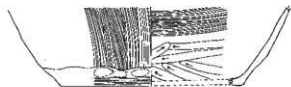
142



143



插图38



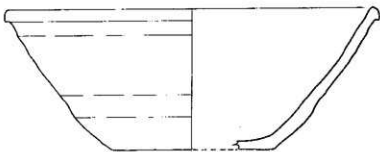
144



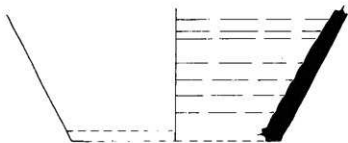
145



148



146



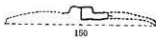
147



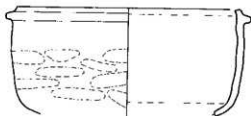
149



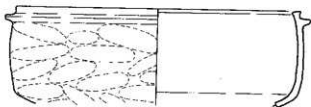
挿図39



100



151



152



153



154



156



156



157



158



159



插图40

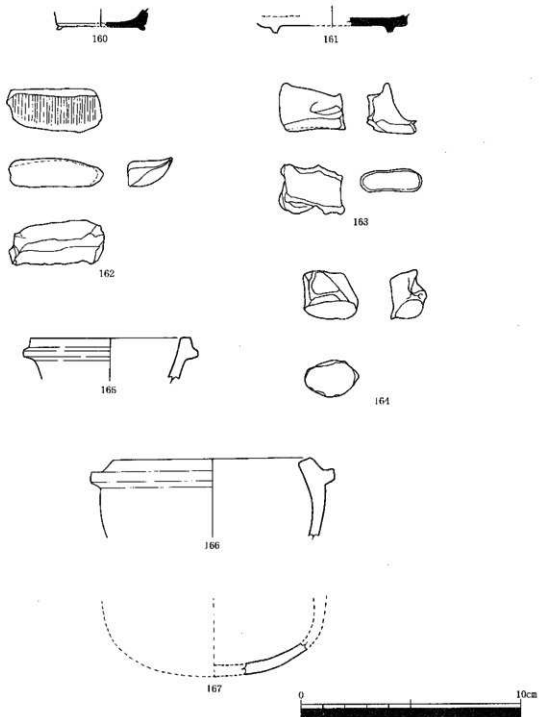
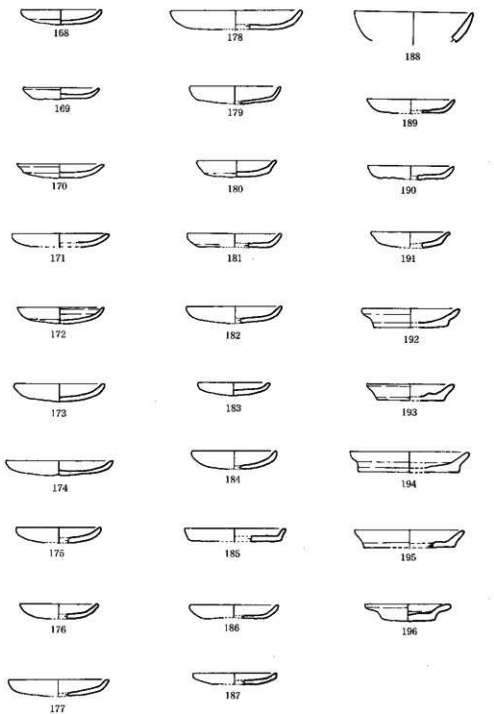


插图41



挿図42

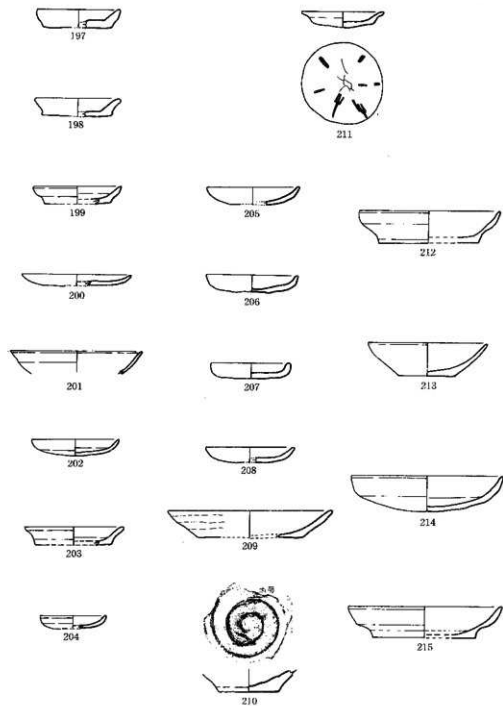


插图43

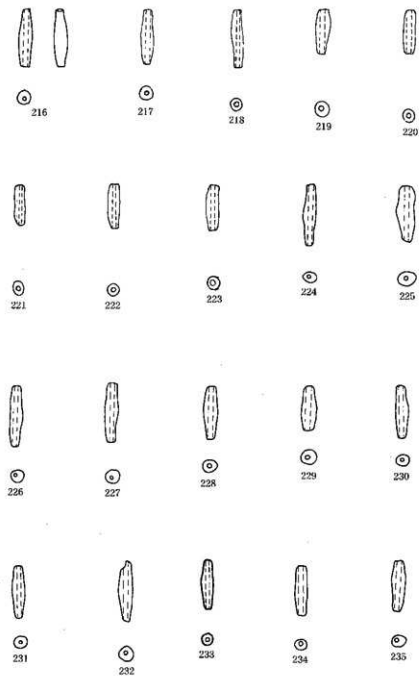
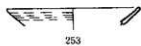
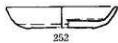
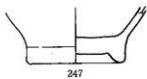
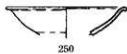
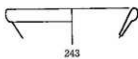
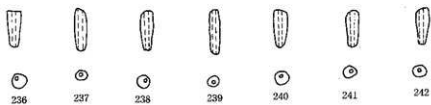
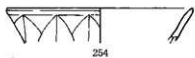


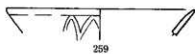
插图44



挿図45



254



259



255



260



256



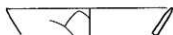
261



267



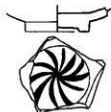
262



258



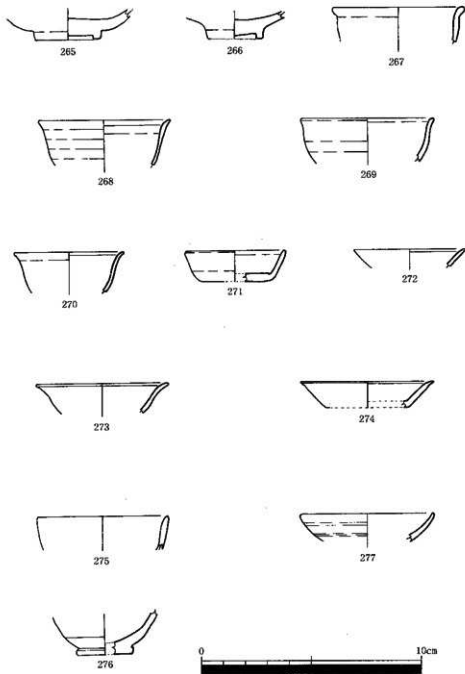
264



263



挿図46



挿圖47

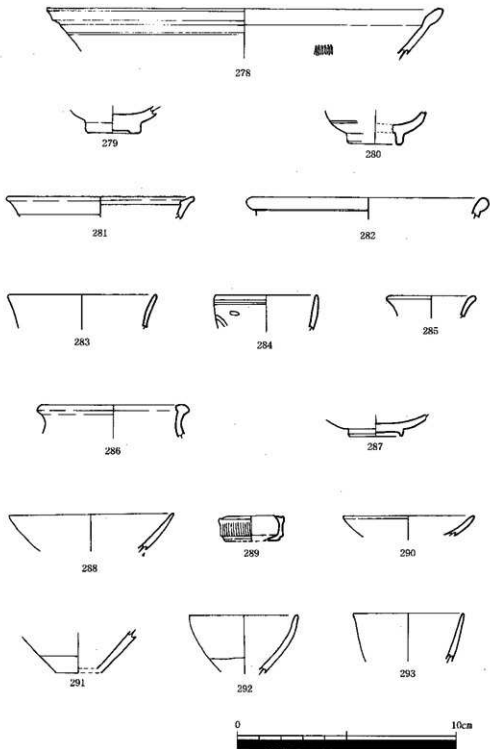
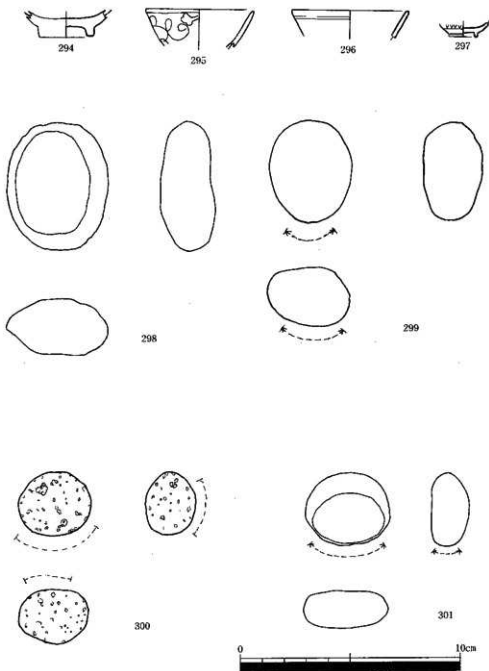
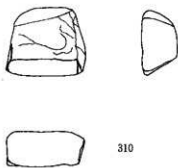
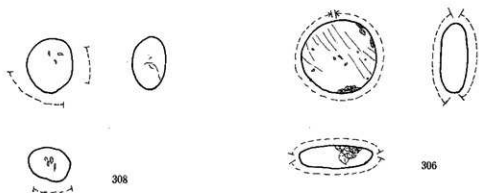


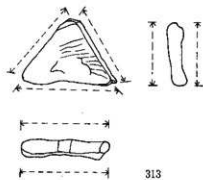
插图48



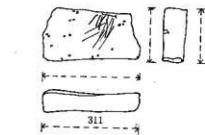
挿図49



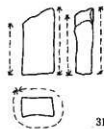
310



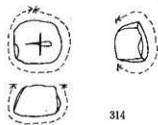
313



311



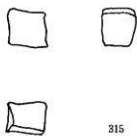
312



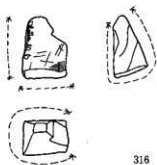
314



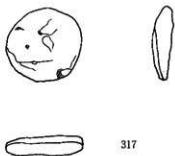
挿図50



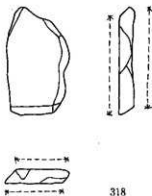
315



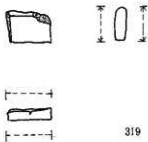
316



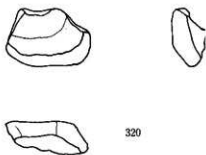
317



318



319



320



挿図51



321



322



323



挿図52

図 版

1～23 調査中（遺構・遺物）

24～44 遺物

1955

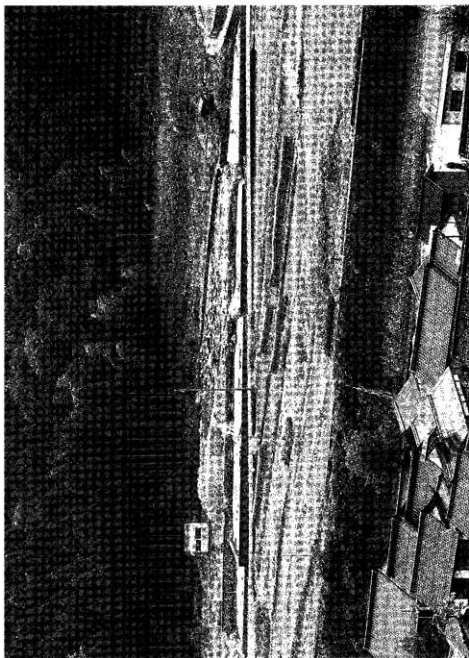
1955

1955

1955

1955

1955



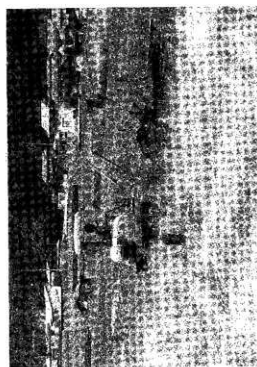
大井家ノ下毛遺跡発掘調査地全体図



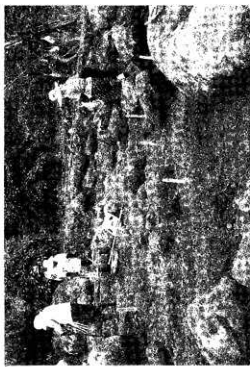
(2) E区 遺構発出中



(4) B区 遺構発出中



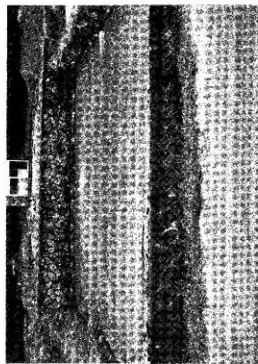
(1) 調査前 (南)



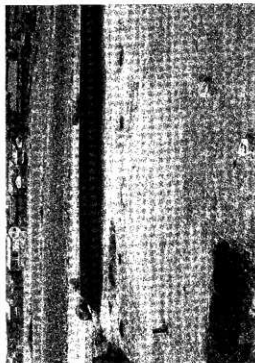
(3) E区 遺構発出中



(2) A区 遺構検出中



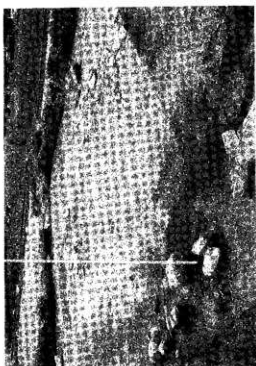
(4) D区 遺構検出中



(1) B区 遺構検出中



(3) E区 遺構検出中



(2) E区 遺構検出中



(4) D区 遺構検出中



(1) C・D区 遺構検出中 東側から



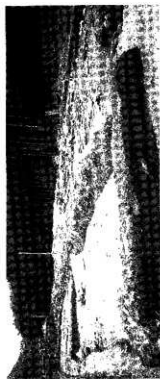
(3) E区 遺構検出中



(1) E·A·B区 連續檢出中



(2) E区 連續檢出中



(3) B·C·E区 連續檢出中



(4) B·E区 連續檢出中



(2) E区 遺構



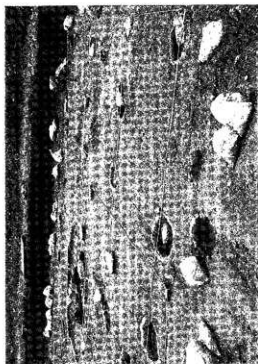
(4) E区 倉庫跡ピット



(1) E区 遺構検出中



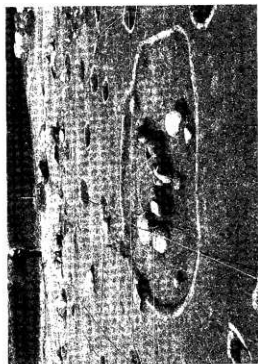
(3) E区 櫛列ピット



(2) E区 SB ζ SK



(4) A区足跡



(1) E区 SB ζ SK



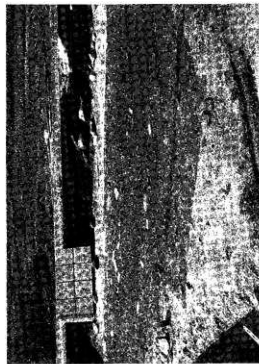
(3) A区足跡



(1) A区足跡



(2) A区足跡



(3) A区足跡



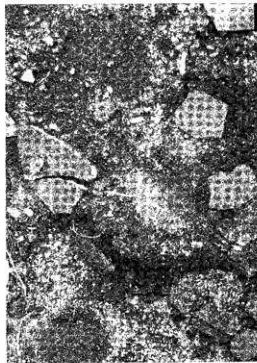
(4) A区足跡



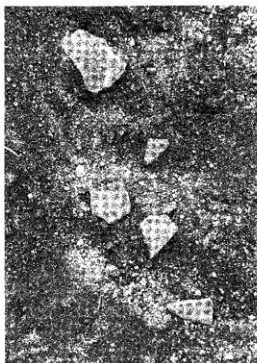
(1) E区 遺構・遺物発出中



(2) E区 出土遺物



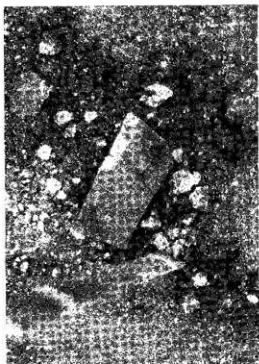
(3) E区 出土遺物



(4) E区 出土遺物



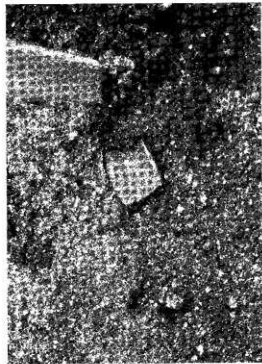
(2) E区 出土遺物



(4) E区 出土遺物



(1) E区 出土遺物



(3) E区 出土遺物



(1) E区 出土遺物



(2) B区 出土遺物



(3) B区 出土遺物



(4) B区 出土遺物



(2) E区 遺構・遺物検出中



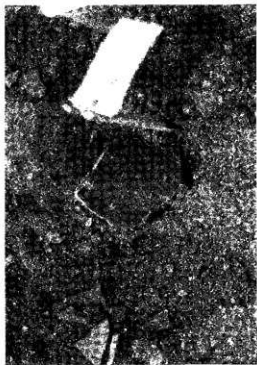
(4) E区 遺構・遺物検出中



(1) E区 出土遺物 (黒着土器等)



(3) E区 遺構・遺物検出中



(2) C区 出土遺物



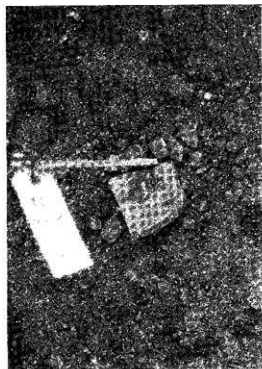
(4) C区 出土遺物



(1) E区 出土遺物



(3) C区 出土遺物



(1) 遺物No.142



(2) 遺物No.201~206



(3) 遺物No.201~206



(4) 遺物No.201~206



(1) E区 出土遺物



(2) E区 出土遺物



(3) E区 出土遺物



(4) E区 取上付No.345



(2) E区 取上17No.347



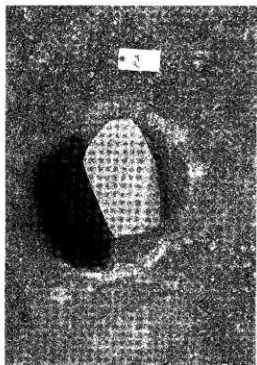
(4) E区 取上17No.350



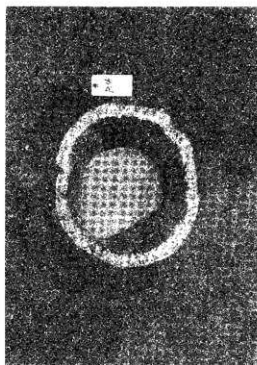
(1) E区 取上17No.346



(3) E区 取上17No.349



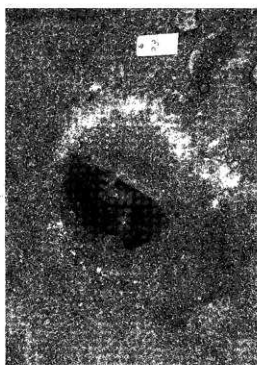
(2) P 2



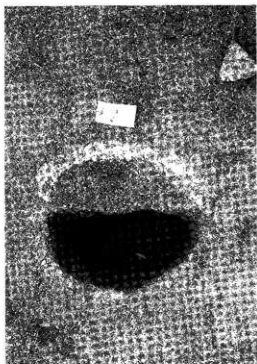
(4) P 4



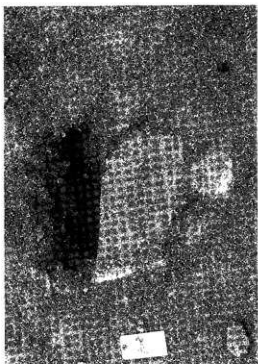
(1) 遺物No140 すり鉢



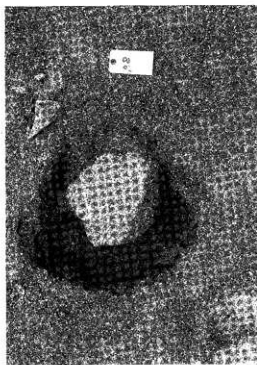
(3) P 3



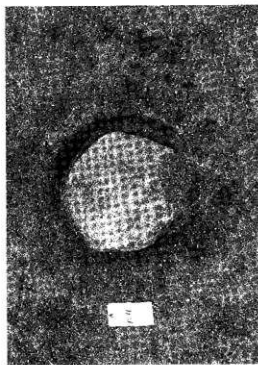
(2) P10



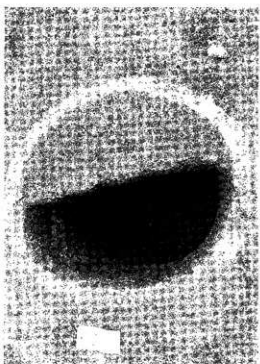
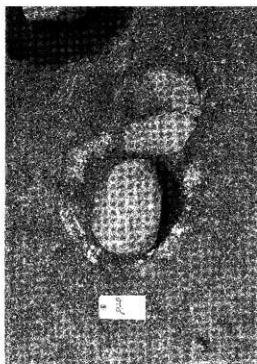
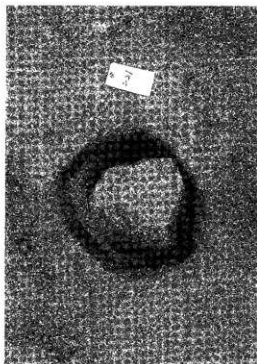
(4) P18

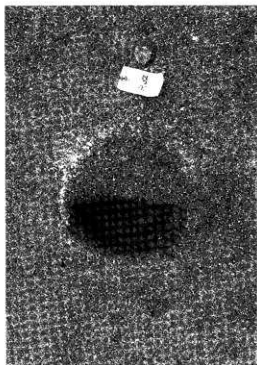


(1) P8

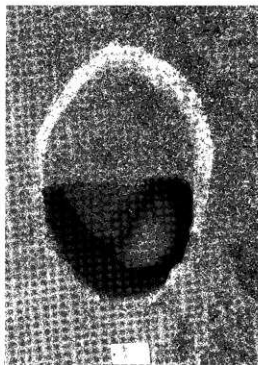


(3) P11





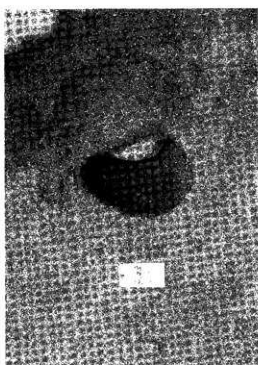
(2) P 3 2



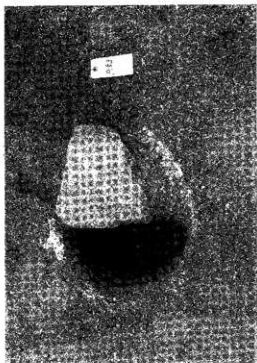
(4) P 3 5



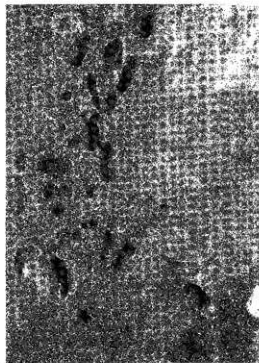
(1) P 3 0



(3) P 3 3



(2) P 53



(4) A区足跡



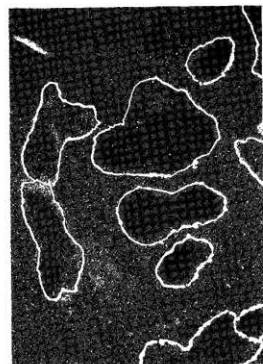
(1) P 41



(3) E区 SK-1



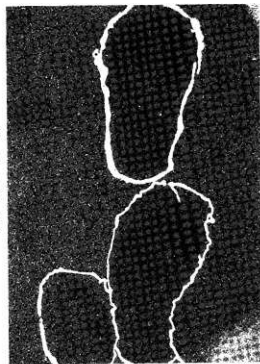
(2) A区 足跡



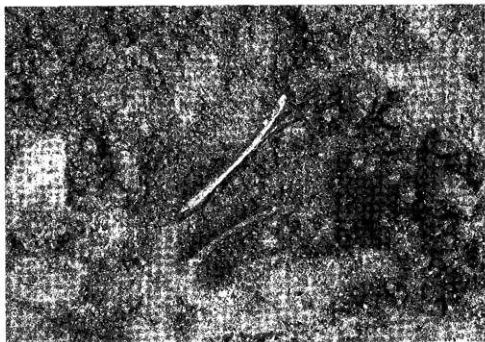
(1) A区 足跡



(4) 足跡より出土した土銅片



(3) A区 足跡



(1) B区出土 木片



(2) B区出土 足跡



1



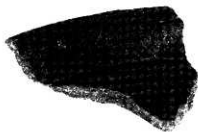
5



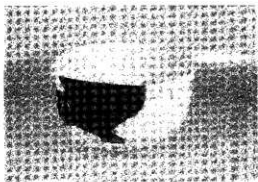
2



6



3



7



4



8



9



13



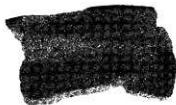
10



14



11



15



12



16



17



20



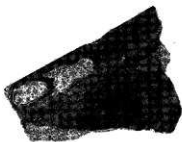
18



21



19



22



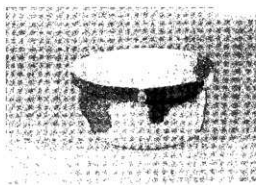
23



24



28



25



29



26



30



27



31



32



36



33



37



34



38



35



39



40



44



41



45



42



46



43



47



48



52



49



53



50



54



51



55



56



60



57



61



58



62



59



63



64



66



65



67



69



70



68



71



72



74



73



75



76



78



77



79



80



82



81



83



84



86



85



87



88



89



91



90



92



93



94



95



96



98



97



99



100



102



101



103



104



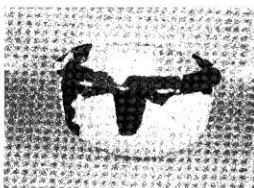
106



105



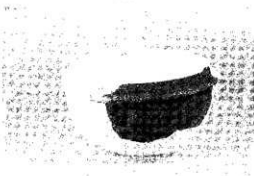
107



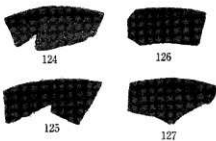
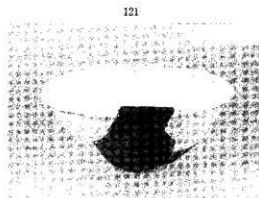
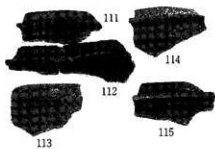
108

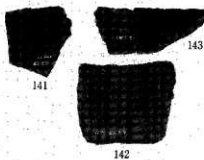
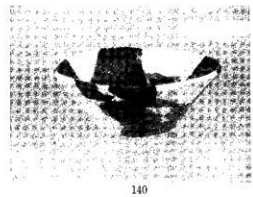
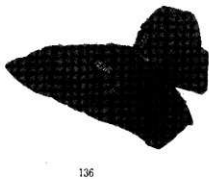
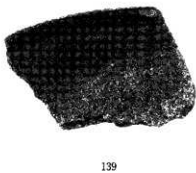
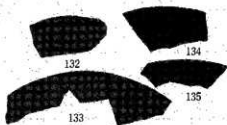
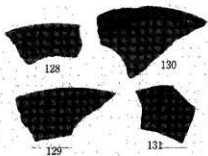


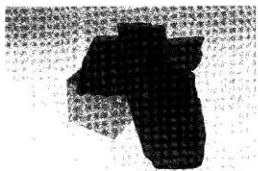
109



110



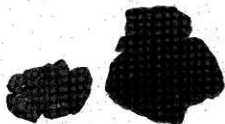




144



149



145

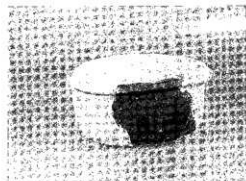
146



150



147



151



148



152



153



162



163



164



154



156



155



157



165



158



159



166



167



160



161



168



171



174



169



172



175



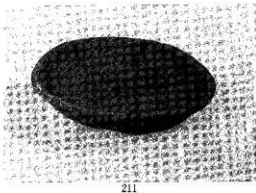
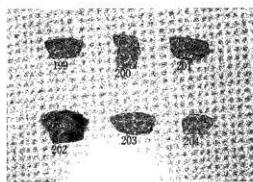
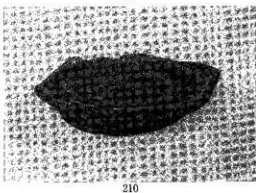
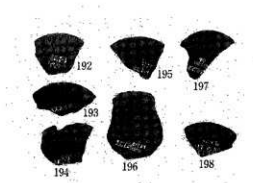
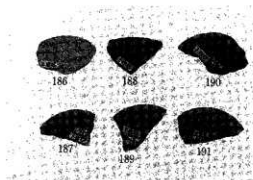
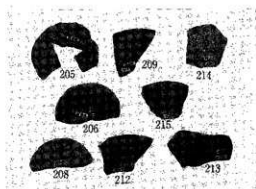
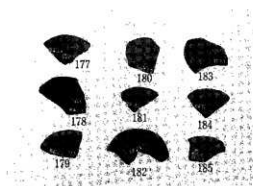
170



173



176





218



243



249



250



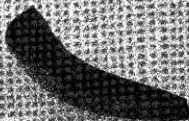
244



245



246



251



247



252



253



251



255



263-2



256



257



258



261-1



259



261



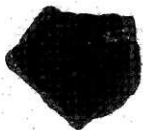
260



262



264-2



263-1



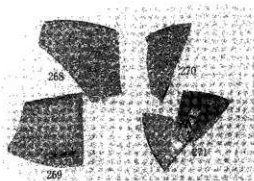
265



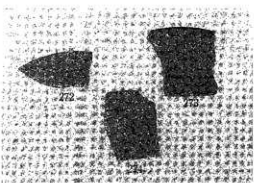
266



267



273-1



278-2

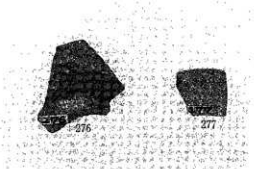


275



279

280



276

277



281

283

285



282

284

286



287



289



288



290



291

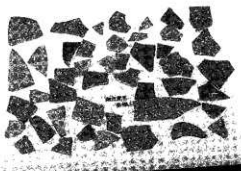


292



龍泉窯
かっか紋

龍泉窯かっか紋



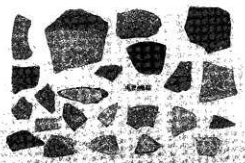
龍泉窯系青磁



293



294



中世磁器



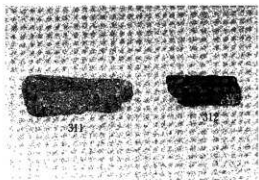
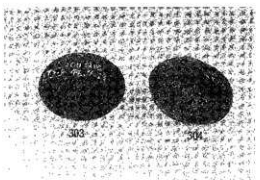
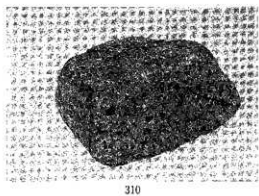
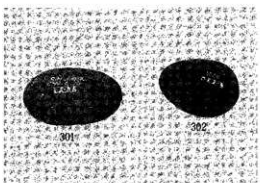
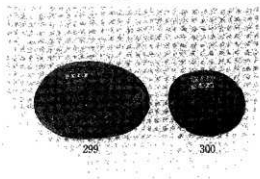
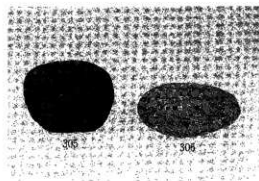
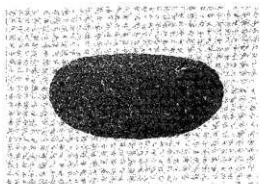
青白磁

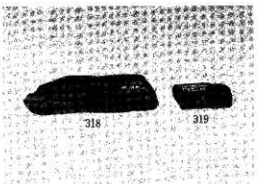
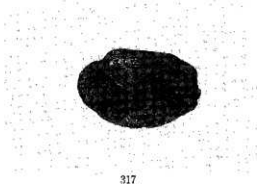
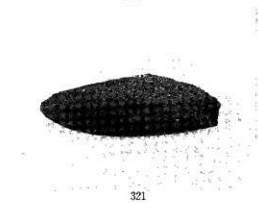
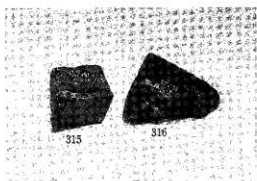
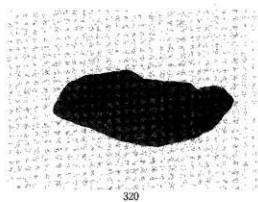
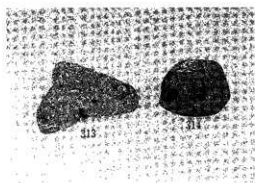
青白磁



染付け

染付け





報告書抄録

ふりがな	おおいへのしもいせきはつくつちようさほうこくしょ							
書名	大井家ノ下モ遺跡発掘調査報告書							
副書名	県営佐治地区ほ場整備事業に伴う事前調査							
シリーズ名	佐治村埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	6							
編集者名	道谷 富十夫							
編集機関	鳥取県八頭郡佐治村教育委員会							
所在地	鳥取県八頭郡佐治村加瀬木2519-3 (TEL 0858 (88) 0211)							
発行年月日	西暦1999年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおいへのしも 大井家ノ下モ	とっとりけんやすひん 鳥取県八頭郡 さしやまおおい 佐治村大井 あさいへのしも 字家ノ下モ	327	31	35°20'07"	134°09'28"	19980622	1450	ほ場整備 事業に 伴う 事前調査
						19990315		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
大井家ノ下モ	集落	鎌倉時代	掘立柱建物 1棟 掘列 1列	土師器・須恵器 土鍋・甕・羽釜 控鉢・すり鉢・壺 坏・土鏝 石鍋 輸入・国産陶磁器 石製品(砥石)	石鍋片 4片(異個体) 中国同安窯・龍泉窯で やかれた陶磁器多数 出土			
	水田	鎌倉時代	足跡					

佐治村埋蔵文化財調査報告書 6

鳥取県佐治村

大井家ノ下モ遺跡発掘調査報告書

発行 平成 11 年 3 月
佐治村教育委員会

印刷 中央印刷株式会社